

・スイッチの使いかた

- ・ エンジンスイッチ 3 - 2
- ・ ライティングスイッチ 3 - 4
- ・ 自動光軸調整機構（オートヘッドランプレベラー） 3 - 5
- ・ 光軸調整ダイヤル 3 - 6
- ・ 方向指示レバー 3 - 7
- ・ イルミネーションコントロールスイッチ 3 - 8
- ・ ワイパー&ウォッシャースイッチ 3 - 8
- ・ フォグランプスイッチ 3 - 13
- ・ フロントワイパーデアイサースイッチ 3 - 14
- ・ リヤウインドウデフォグガー（曇り取り）スイッチ 3 - 15
- ・ ハザードランプ（非常点滅灯）スイッチ 3 - 16
- ・ パーキングランプ（駐車灯）スイッチ 3 - 16
- ・ インタークーラーウォータースプレイ 3 - 17

・メーター、表示灯、警告灯の見かた

- ・ メーター 3 - 19
- ・ 表 示 灯 3 - 27
- ・ 警 告 灯 3 - 33

・運転装置の使いかた

- ・ エンジンの始動と停止のしかた 3 - 41
- ・ 駐車ブレーキレバー 3 - 43
- ・ ホーンスイッチ 3 - 43

・マニュアル車の運転

- ・ チェンジレバー 3 - 44

・オートマチック車の運転

- ・ セレクトレバー 3 - 45
- ・ 運転手順 3 - 49
- ・ スポーツシフト 3 - 53
- ・ スノーホールドモードスイッチ 3 - 55
- ・ パワーモードスイッチ 3 - 55

・AWD車の運転

- ・ 運転するとき 3 - 56
- ・ 取り扱いについて 3 - 56
- ・ ビスカスLSD付センターデフ方式フルタイムAWD 3 - 57
- ・ VTD-AWD 3 - 58
- ・ アクティブトルクスプリットAWD 3 - 58
- ・ ドライバースコントロールセンターデフ 3 - 59

・ブレーキ

- ・ ABS：アンチロックブレーキシステム 3 - 62
- ・ ブレーキブースター（制動力倍力装置） 3 - 64

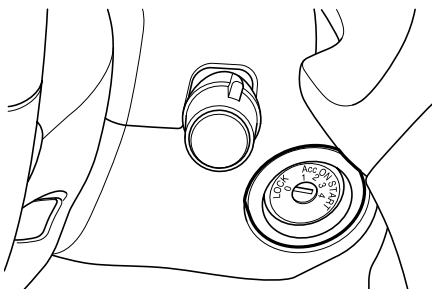
・ハンドル

- ・ パワーステアリング 3 - 65

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ

■各位置の働き



300078

LOCK (ロック) 0	キーの抜き差しができる位置 キーを抜くとハンドルがロックされます
1	電源が切れる位置 マニュアル車はキーを押し込む位置 オートマチック車は、セレクタレバーが[P]にあるときは、この位置は使えません
Acc (アクセサリ) 2	エンジン停止時、次のものが使用できる位置 ワイパー、ウォッシャー、オーディオ、電源ソケット
ON (オン) 3	エンジン回転中の位置 全ての電装品に作動電源が供給されます
START (スタート) 4	エンジンを始動する位置

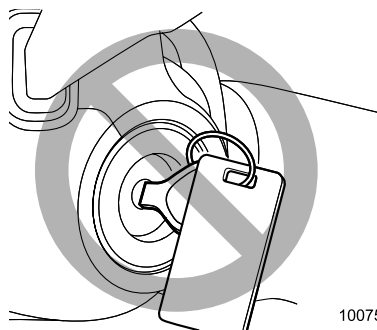
⚠ 警告

走行中LOCKにしないでください。キーが抜けるとハンドルがロックされ、操作できなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

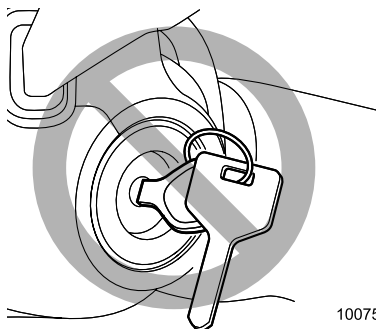
- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがありますので注意してください。大型のキーホルダーはキーに付けしないでください。テコの原理で小さな力でも回ってしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けしないでください。また、重いものをキーに付けしないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

キーグリップにキーホルダーやアクセサリがかさなっているとき



100758

キーグリップに他のキーがかさなっていると



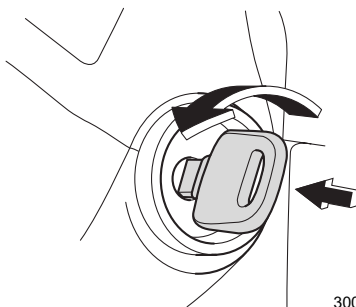
100759

🏠 アドバイス

- エンジンを止めているときスイッチをLOCKにしてください。
長時間ONにしたり、Accにして電装品を使うとバッテリー上がりの原因になります。
- キーがLOCKからAccに回らないときはハンドルを左右に回しながらキーを操作してください。

■キーを抜くとき

オートマチック車は、セレクトレバーを[P]にしてキーをLOCKに回してください。
マニュアル車は、「1」（キーを手前に回すと動かなくなる位置、エンジンスイッチに1と刻印）でキーを押し込んでからLOCKに回してください。



300079

🏠 アドバイス

ルームランプを中間（ドア運動）位置にしている場合、キーを抜くと一旦点灯し、徐々に消灯します。
☆4-54ページ参照

■キー抜き忘れ警報

（キーを抜き忘れるとブザーが鳴ります）
キーをエンジンスイッチに差したまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴り、エンジンキー照明が点滅します。（照明の点滅は一部車種除く）
ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。

🏠 アドバイス

車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

運転するとき

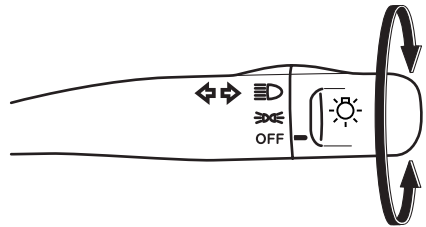
■エンジンキー照明 (イグニッションキー照明)

エンジンスイッチの周辺が点灯します。



運転席のドアを開けたとき点灯し、閉めた後も5秒間点灯し、その後消灯します。また、キーをエンジンスイッチに差したまま運転席ドアを開けると点滅します。ただし、エンジンスイッチがONのときは点滅しません。

ライティングスイッチ

エンジンスイッチがONのときスイッチを回すと次のようにランプが点灯します。



300080

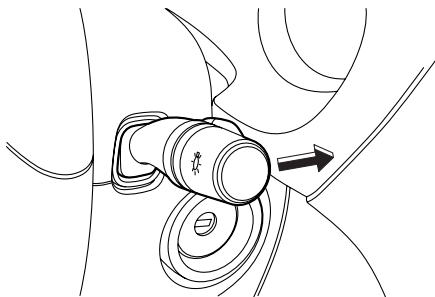
スイッチの位置	ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号灯
OFF	消灯	
	消灯	点灯
	点灯	

アドバイス

エンジン停止中はランプ類を長時間点灯させないでください。
バッテリー上がりを起こします。

■ヘッドランプの上下を切り替えるとき

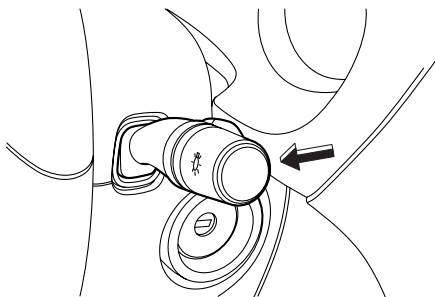
ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前に押しすと上向きになります。元に戻すと下向きになります。



300044

■合図のしかた（パッシング）

レバーを手前に引いている間、ヘッドランプの上向き、下向きが同時に点灯します。ライティングスイッチがOFFでも使えます。



300045

自動光軸調整機構（オートヘッドランプレバー）

下向きヘッドランプに HID（高輝度放電式ランプ）が装着されている車には、自動光軸調整機構がついています。

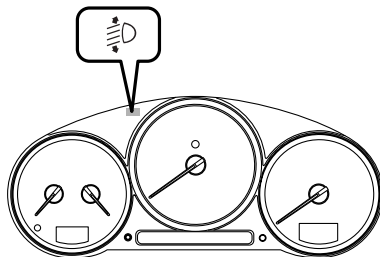
ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車の迷惑になります。そのため、同乗者及び積載量から自動的に照射方向を調整し、最適に保ちます。

警告

HIDバルブは、高電圧を使用しています。感電防止のため、ランプを分解したり、改造したりしないでください。バルブの脱着、交換はスバル販売店にご相談ください。

■オートヘッドランプレバー警告灯

エンジンスイッチをONにしたとき約3秒間点灯し、消灯するのが正常です。エンジン回転中、自動光軸調整機構（オートヘッドランプレバー）の電子制御システムに異常があると点灯します。



300745

運転するとき

注意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

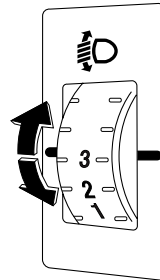
- HIDバルブは、点灯、消灯を繰り返すとバルブの寿命が短くなる特性があります。信号待ちなど短時間の場合は、点灯したままの方がバルブが長持ちします。
- バルブが切れかかると、一般の蛍光灯と同じように、著しく明るさが低下したり、点滅したり、赤味を帯びた色になることがあります。そのような現象が現れるときは、スバル販売店にご相談ください。
- HIDランプは点灯後、安定するまでに若干明るさや色が変わることがあります。
- HIDランプは、発熱量が少ないため雪道走行の際、レンズ面に積もった雪が溶けにくい特性があります。雪を落として走行してください。

光軸調整ダイヤル

下向きヘッドランプにハロゲンランプが装着されている車には、光軸調整機構がっています。ヘッドランプの下向き点灯時に使います。

エンジンスイッチがONのとき使用できません。

- 同乗者および積載量によってヘッドランプが上向きを照らすことがあります。このようなとき、対向車の運転の妨げになるため、光軸調整ダイヤルを調整し、ヘッドランプが照らす向きを下側にしてください。
- ダイヤルの目盛りが大きくなるほどヘッドランプが照らす向きが下側になります。



300747

- 乗車人数、荷室への積載状態に応じて、下の表を参考にダイヤル位置を調整してください。

セダン

ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは2名	0名	無
1	2名	3名	有※
2	1名	0名	有※
3	—	—	—

※最大許容重量まで積載した場合

方向指示レバー

ワゴン

ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは2名	0名	無
1	2名	3名	有※
2	1名	0名	有※
3	—	—	—

※最大許容重量まで積載した場合

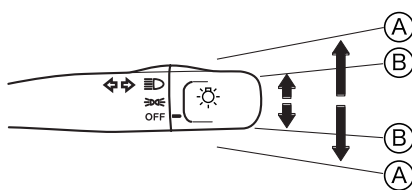
🏠 アドバイス

- ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車に迷惑となります。対向車のフロントガラスや前を走る車のミラーを照らしているときは、光軸調整ダイヤルを操作してヘッドランプを下向きに調整してください。
- ハロゲンヘッドランプの光軸調整をするときは、光軸調整ダイヤルを「0」の位置にしてから行ってください。

エンジンスイッチが ON のとき、レバーを Ⓐ の位置まで動かすと方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。

右折あるいは左折後、ハンドルを戻すとレバーは自動的に元の中立位置に戻り、方向指示器とメーター内の表示灯が消灯します。ハンドルを戻してもレバーが戻らないときは手で戻してください。

☆3-30ページ参照



300081

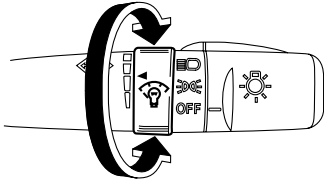
🏠 アドバイス

車線変更の合図をするには

レバーを変更しようとする方向に軽く押さえていると方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。(Ⓑ位置) 手を放すとレバーは元の位置に戻ります。

運転するとき

イルミネーションコントロールスイッチ



300222


調整リングを回すことにより5段階にメーター内の照明の明るさを調整します。車内外の明るさに応じて調整してください。

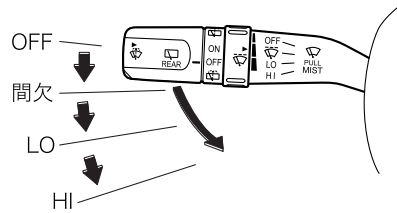
ワイパー&ウォッシャースイッチ

エンジンスイッチがAccまたはONのときに使用できます。

■フロントワイパーの作動

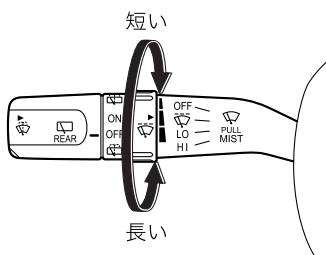
レバーを押し下げるとワイパーが作動します。

OFF	停止
	間欠作動
LO	低速連続作動
HI	高速連続作動



300641

●間欠作動の時間調整

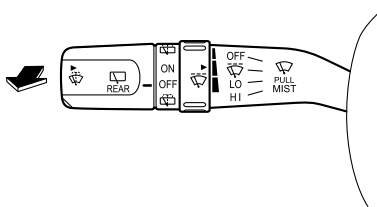


300642

レバーを1段押し下げます。
リングを回し間欠作動の間隔を調整します。
作動の間隔は2秒から16秒の間で調整できます。
リングを上に戻すと作動間隔が短くなり、下に戻すと長くなります。

●ワイパーを手動で使いたいときには (MIST)

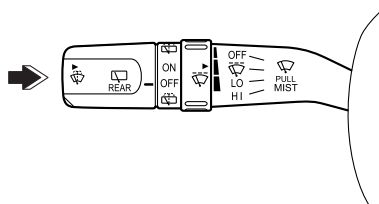
レバーを手前に引いている間、ワイパーが動きます。手を放すと停止します。



300643

●フロントウォッシャー

スイッチを押している間、ウォッシャー液が噴射します。



300644

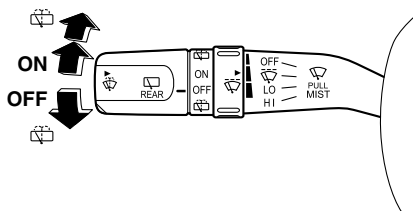
 **アドバイス**

ワイパーが連動します。
スイッチを押すとワイパーが1～2回動きます。



運転するとき

■ リヤワイパー／ウォッシャーの作動


スイッチを回すと作動します。



300645

 (上側)	ウォッシャー液が噴射し、手を放すとONに戻ります。
ON	連続で作動
OFF	停止
 (下側)	ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが動きます。手を放すとOFFに戻ります。

🏠 アドバイス

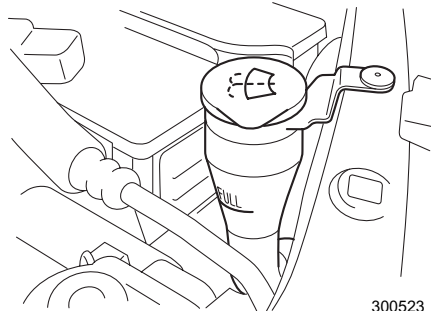
- ガラスが乾いているときにはワイパーを操作しないでください。ガラスに傷をつけることがあります。また、ワイパーブレードに傷がつき、拭き残しの原因となります。
 - ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを押し続けるとポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
 - ガラスに拭き残りができるときにはブレードのラバーを交換してください。
☆7-7ページ参照
 - 寒冷地で屋外に駐車するときにはワイパーを立てておいてください。ワイパーブレードがガラスに凍りつくことを防止します。
 - ワイパーブレードがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、以下の操作を行いガラスを暖めてください。
 - ・ フロントガラスは、エアコンの吹き出し口切り替えダイヤルを (デフロスター) にするか、フロントワイパーデアイサーを使用してください。
 - ・ リヤガラスは、リヤウインドウデフォグラーを使用してください。
- ☆3-14、3-15、4-4ページ参照
- 積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをOFF、エンジンスイッチをAccまたはLOCKにし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

- フロントワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にワイパーが止まることがあります。その場合には、車を安全な場所に止めて、一度ワイパースイッチを OFF にしてください。10 分ほどするとブレーカーが復帰して通常使用できるようになります。
- ゴミがつまるなど、ウォッシャー液が噴射できないときは、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

■ウォッシャータンク

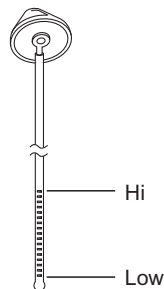
運転前にウォッシャー液の量を点検してください。

ボンネットを開け、向かって右側のヘッドランプ後ろに給水口があります。フロントとリヤの共用になっています。(リヤワイパーなし車はフロントのみ)



300523

キャップを外し、キャップに付いているレベルゲージで液量を点検します。



300172

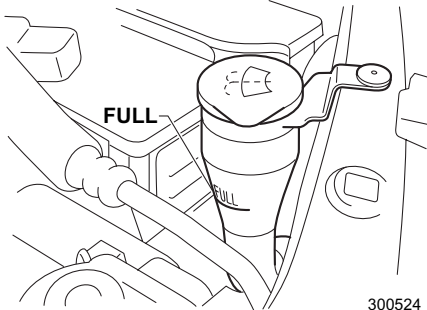
運転するとき

レベルゲージ下部の穴（レベル）にウォッシャー液の膜が付着していることを確認してください。

付着していない場合、ウォッシャー液をレベルゲージのHiの位置、あるいは注入口のFULL位置まで補給してください。

補給するときは、注入口のFULL位置以上ウォッシャー液を入れないでください。

（FULL位置は、注水ホースのほぼ中央にあり、エンジン側に記載されています。リザーバタンクの脇から確認するか、注水口を覗き込んで確認してください。）



300524

⚠ 注意

- 降雪時、寒冷時には、フロントおよびリヤガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。

☆4-4ページ参照



- 降雪時、寒冷時には、ウォッシャー液は外気温度に合わせた濃度にしてください。濃度がうすいと液がタンク内で凍りつくことがあります。

☆5-3ページ参照

- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物等が入らないよう注意してください。ポンプにつまるなどの作動不良を起こすおそれがあります。

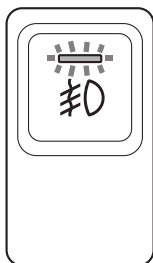
フォグランプスイッチ

■フロントフォグランプスイッチ

エンジンスイッチがONでライティングスイッチが  または  のとき、スイッチを押すとフロントフォグランプが点灯します。

フロントフォグランプ点灯中はスイッチ内のランプが点灯します。

フロントフォグランプを消灯させる場合は、もう一度スイッチを押してください。消灯時はスイッチ内のランプが消灯します。



300256

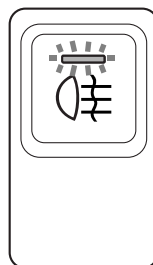
■リヤフォグランプスイッチ

エンジンスイッチがONで、フロントフォグランプまたはヘッドランプが点灯しているとき、スイッチを押すとリヤフォグランプが点灯します。

リヤフォグランプ点灯中はスイッチ内のランプが点灯します。

リヤフォグランプを消灯させる場合は、もう一度スイッチを押してください。



消灯時はスイッチ内のランプが消灯します。




300228

運転するとき

アドバイス

- リヤフォグランプの消し忘れ防止のため、以下の操作を行うとリヤフォグランプが消灯します。
 - ・ エンジンスイッチOFF
 - ・ ライティングスイッチ  (リヤフォグランプのみ点灯時) またはOFF
- フロントフォグランプスイッチOFF (ライティングスイッチ  時)
- 再度リヤフォグランプを点灯させるには、フロントフォグランプまたはヘッドランプを点灯させ、リヤフォグランプスイッチを押してください。

次ページへ 

▶ 前ページより

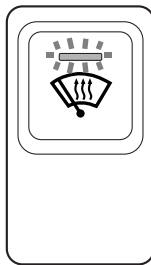
- フロントフォグランプ（霧灯）は光束が拡散するように設計されていますのでヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車に迷惑をかけることとなります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときにだけ使用してください。
- リヤフォグランプは使用方法を誤ると、後続車に迷惑をかけることとなります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪く、後続車に自分の位置を知らせる必要があるときにだけ使用してください。

フロントワイパーデアイサースイッチ

エンジンスイッチが ON のとき使用できません。

フロントワイパーがガラスに凍結（ワイパー停止位置）しているとき、ガラスを暖めてワイパーが作動できるようにします。

- スイッチを押すとスイッチ内の表示灯が点灯し、フロントガラスの下側が暖められます。約15分後、自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。（表示灯が消灯しします）



300229

アドバイス

ワイパーデアイサーは消費電力が大きいので

- 必要なとき以外はスイッチを切ってください。長時間使い続けると、バッテリー上がりの原因になります。
- 物が電熱線に当たらないように気をつけてください。

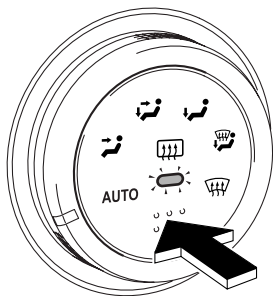
リヤウインドゥデフォグガー (曇り取り)スイッチ

エンジンスイッチがONのとき使用できます。

スイッチはエアコンの操作パネルの中にあります。

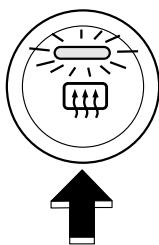
リヤガラスの内側が曇ったときに使用します。

- スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、約15分後、自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。(表示灯が消灯します)



200362

オートエアコン付車



300230

マニュアルエアコン付車

アドバイス

- 消費電力が大きいので長時間使うことや雪を溶かすような使いかたは避けてください。
- ガラス内側の清掃時、電熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で電熱線に沿って軽く拭いてください。ガラスクリーナー、洗剤は使わないでください。
- ヒーテッドドアミラー装備車は、リヤウインドゥデフォグガースイッチを押すと、ヒーテッドドアミラーも連動して作動します。

運転するとき

IMPREZA GD2-009301～099999, GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999, GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999, GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999, GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999, GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

ハザードランプ(非常点滅灯)スイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

やむを得ず路上に駐車するとき、高速道路で渋滞の最後尾に近づいたとき、他の車に自分の車の存在を知らせるために使います。スイッチを押すと方向指示器が点滅します。



300082

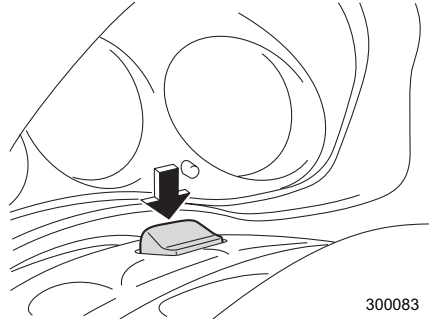


アドバイス

- 非常のとき以外は使わないでください。
- 長時間、点滅したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

パーキングランプ(駐車灯)スイッチ

夜間、路上に一時駐車するとき使います。エンジンスイッチの位置に関係なく、コラムカバー上面のスイッチを押すと前後の駐車灯が点灯します。



300083



アドバイス

長時間点灯したままにすると、バッテリー上がりの原因になります。短時間の駐車にご利用ください。

インタークーラーウォータースプレイ

暑い日に、気温上昇によるインタークーラーの冷却効果が低下したとき、インタークーラーに水を噴射することにより、冷却性能を維持することができます。

■ウォータースプレイの作動

●マニュアルモード

マニュアルモードスイッチを押すと、約2秒間噴射します。



300325



300663

🏠 アドバイス

- インタークーラーウォータースプレイ液の残量が少なくなると警告灯が点灯します。点灯している間、AUTOモードでは噴射しません。また、マニュアルモードでは噴射可能ですが、早めに給水してください。
水がない状態または水が凍結した状態でスイッチを押し続けるとポンプの故障の原因となるおそれがあります。
☆3-39ページ参照
- AUTOモードスイッチON時においてもマニュアルモードが優先されます。

運転するとき

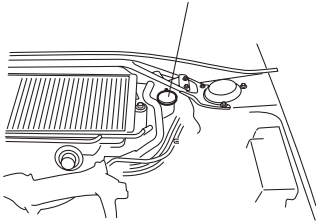
●水の補充

インタークーラーウォータースプレイトankは以下の位置にあります。

- インタークーラー右側 (STI)
- トランク内 (STI spec C)

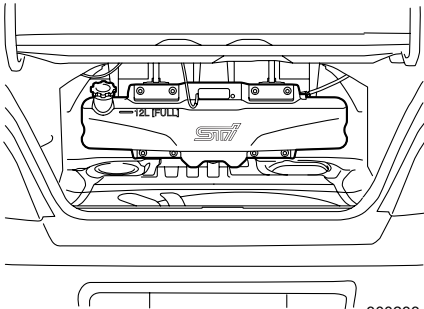
〈STI〉

インタークーラーウォータースプレイトank



300661

〈STI spec C〉



300233



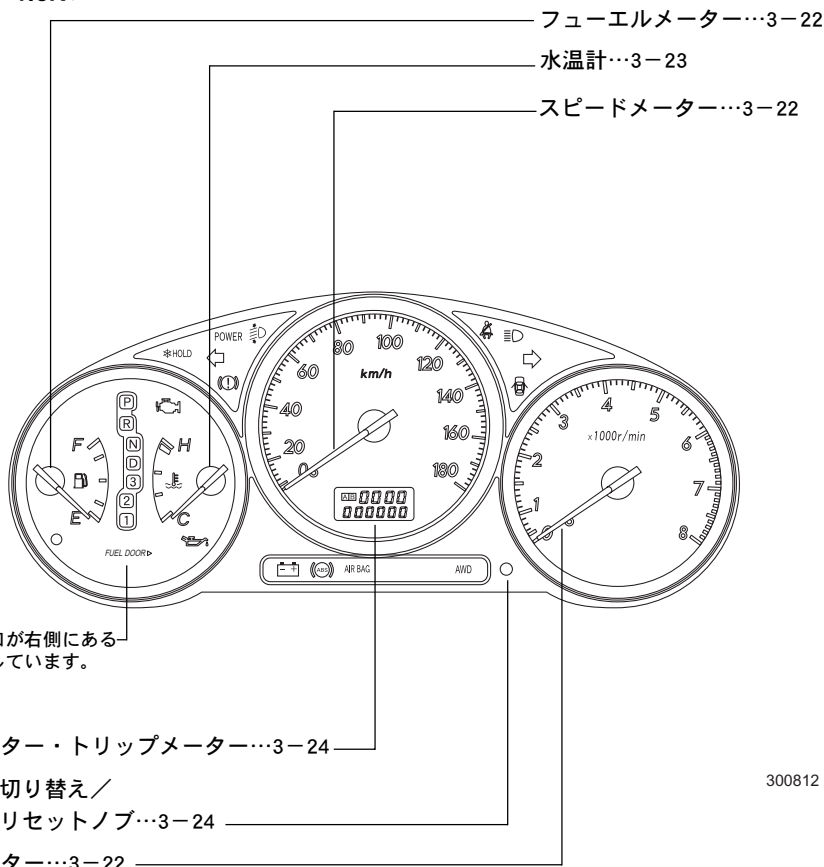
アドバイス

- 必ず水を補給してください。
- 凍結によるタンクの破損を防ぐため、寒冷時、使用しない場合における水量は半分程度としてください。
- タンクの容量：
4.2 ℓ (STI)
12 ℓ (STI spec C)

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーター

< 1.5i、1.5R >



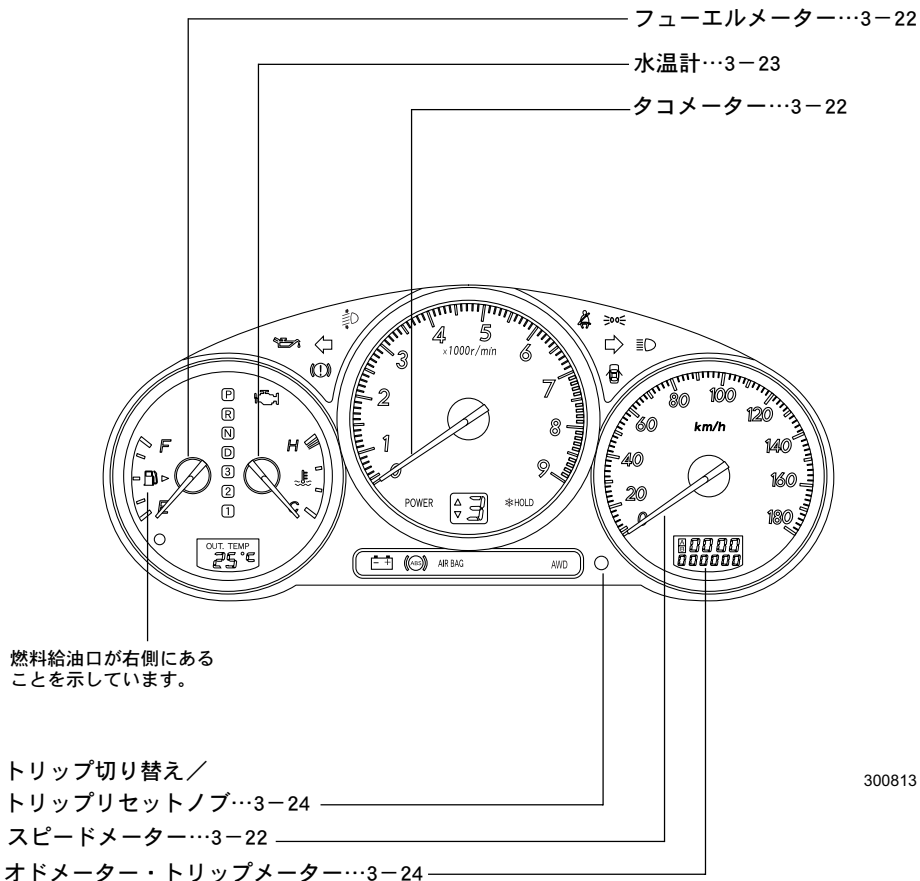
300812

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

運転するとき

IMPREZA GD2-009301～099999, GD3-006701～099999,
 GDA-020201～099999, GDB-040301～099999,
 GDC-002001～099999, GDD-002001～099999,
 GG2-079301～099999, GG3-048601～099999,
 GGA-014601～099999, GGC-002001～099999,
 GGD-002001～099999

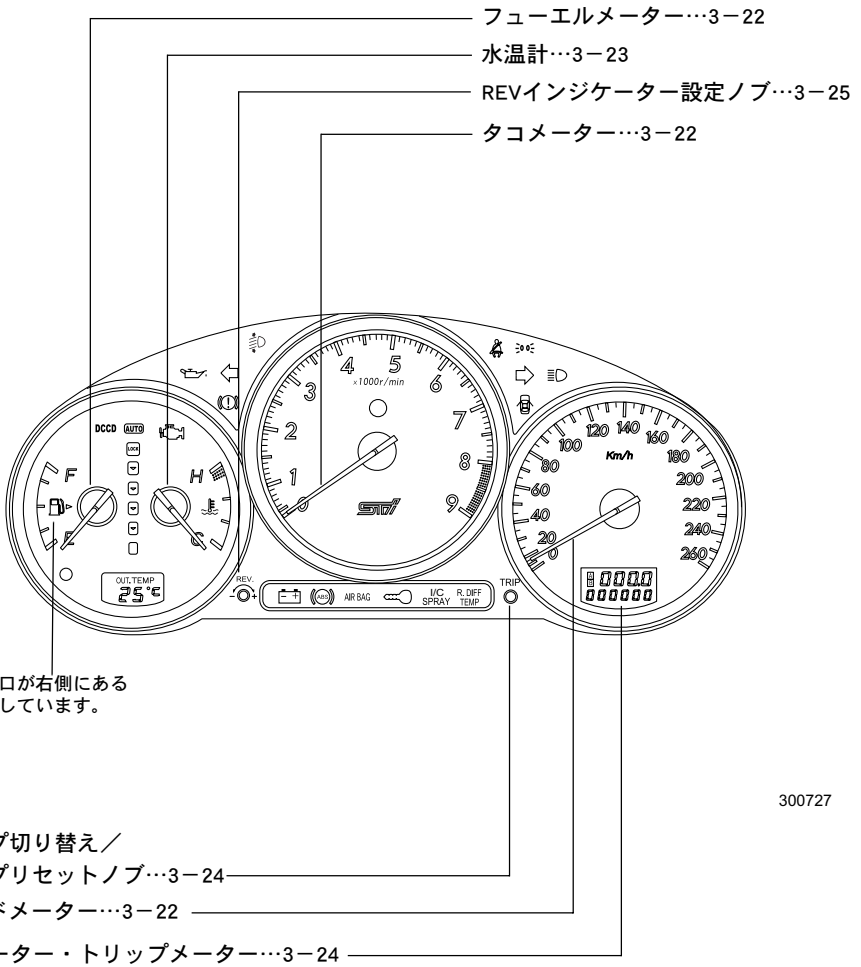
<1.5R 、WRX>



300813

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

<STI、STI spec C>



300727

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

IMPREZA GD2-009301~099999, GD3-006701~099999,
 GDA-020201~099999, GDB-040301~099999,
 GDC-002001~099999, GDD-002001~099999,
 GG2-079301~099999, GG3-048601~099999,
 GGA-014601~099999, GGC-002001~099999,
 GGD-002001~099999

■スピードメーター

車の走行速度を示します。



アドバイス

速度警告装置はついていません。
スピードを出し過ぎないようにしてください。

■タコメーター(エンジン回転計)

毎分のエンジン回転数を示します。



注意

指針がレッドゾーン(エンジンの許容回転数を超えている範囲)に入らないように運転してください。

指針がレッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどが損傷することがあります。



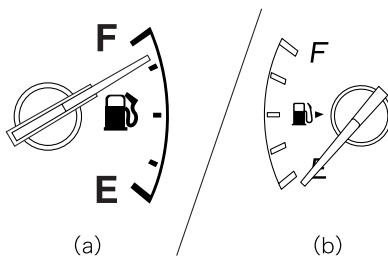
アドバイス

- アイドリング時に電気負荷が変動すると、エンジン回転が変動することがあります。
- 極低速時、または停車時にハンドルを操作すると、エンジン回転数が変動することがあります。

■フューエルメーター(燃料計)

燃料の残量を示します。指針が「E」に近づいたら早めに燃料を補給してください。

- エンジンスイッチの位置に関係なく燃料の残量を示します。(下図a)
- エンジンスイッチをOFFにすると針が下がります。エンジンスイッチをONにすると燃料の残量を示します。(下図b)



300815

☆2-15ページ参照



注意

燃料を補給するときは、必ずエンジンを止めて行ってください。

☆1-24ページ参照

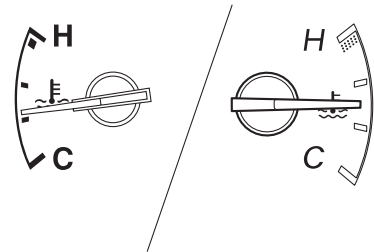
🏠 アドバイス

- エンジンスイッチをOFFにしているとき、温度変化や振動で指針が若干変わる場合があります。
- 燃料を補給後エンジンスイッチをONにしてから指針が安定するまでしばらく時間がかかります。
- 指針と消費量（残量）の関係は必ずしも正確ではありません。目安として活用してください。
- 坂道やカーブ、急発進、急停車などではタンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。
- エンジンスイッチがONのまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示されません。燃料補給時には、安全のため必ずエンジンを止めてください。
- 燃料を補給するときは、約15ℓ以上給油しないと指針が動きません。（STI車のみ）

■水温計

エンジンスイッチがONのとき、エンジン冷却水の温度を示します。

冷却水が暖まると指針はオーバーヒートゾーンより下（ゲージのほぼ中央）を示します。



300816

⚠️ 注意

指針がオーバーヒートゾーンを指したまま下がらないときは、オーバーヒートのおそれがあります。直ちに安全な場所に停車し、必要な処置（エンジンを冷やす）をしてください。

☆6-21ページ参照

🏠 アドバイス

エンジンスイッチがOFFのときは、指針は冷却水の温度に関係なく「C」を示します。

「H」：高温（HOT）

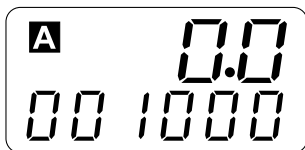
「C」：低温（COLD）

を示しています。

運転するとき

■オドメーター・
トリップメーター
(積算距離計・区間距離計)

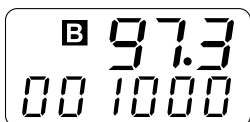
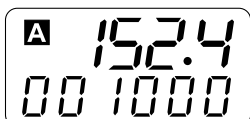
- オドメーター (下段)
走行した総距離をkmで表示します。



300088

●トリップメーター (上段)

ある区間に走行した距離を知りたいとき使います。表示範囲は0.0 km～9999 kmです。0.0 km～999.9 kmでは0.1 km単位、1000 km～9999 kmでは1 km単位で積算します。



300089

🏠 アドバイス

エンジンスイッチがON以外の位置でもトリップ切り替えノブを押すと、約10秒間バックライトが点灯し、オドノトリップメーターを表示します。

●トリップ[A]、[B]切り替え

トリップ切り替えノブを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

トリップメーター[A]→トリップメーター[B]



●トリップメーター[A]・[B]を0に戻すとき

トリップ[A]または、トリップ[B]のリセットしたい方を表示させ、トリップ切り替えノブを押し続けると0に戻ります。

🏠 アドバイス

液晶表示は偏光サングラスを使用すると見えにくくなる場合があります。

■ REV インジケーター設定ノブ



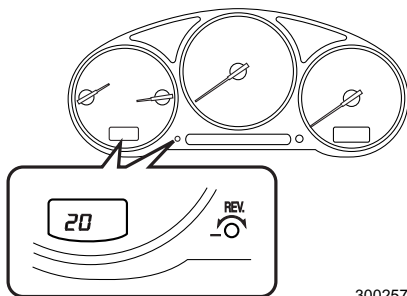
REVインジケーターの作動設定、または、指針初期作動の設定（STIのみ）を行う場合に使用します。

🏠 アドバイス

REVインジケーターは任意に設定したエンジン回転数になったことをランプ（インジケーター）の点灯、またはブザーの吹鳴によりドライバーに知らせます。

● 設定手順

- ①REVインジケーター設定ノブを左右どちらか一方に回すとブザーが鳴り設定状態となります。
- ②REV インジケーター設定ノブを回し、回転数を設定します。



300257

- 左（-）に回す：100 rpmずつ減
- 右（+）に回す：100 rpmずつ増

ノブを回し続けると早送りします。同時にタコメーターの指針が設定回転数を示します。

（タコメーターの指示は参考です）

また設定時ノブ操作が約3秒間ない場合

- ③へ自動で移行します。

〈エンジン回転数の設定範囲〉

2000～8000 rpmの間、100 rpm単位で設定ができます。

液晶パネルの表示は次のようになります。

設定回転 (rpm)	0	2000	2100	~	7900	8000
液晶表示	00	20	21		79	80

- ③REV インジケーター設定ノブを回し、ブザー吹鳴の有無を設定します。

- 右（+）に回す：ブザー吹鳴ON。
ブザーとインジケーターで知らせます。（液晶表示：On）
- 左（-）に回す：ブザー吹鳴OFF。
インジケーターのみで知らせます。（液晶表示：--）

設定後ノブ操作が約3秒間ない場合ブザーが1回吹鳴して設定を終了し、外気温表示に戻ります。

運転するとき

●設定の解除

設定回転数を“0”にするとブザーインジケーターともにOFFします。



アドバイス


- 設定中、REV インジケーターは作動しません。
- 設定回転数を“0”にすると設定は終了します。
- 設定途中でエンジンスイッチをOFFにしたり走行を始めると設定は終了します。
- 走行中の設定はできません。

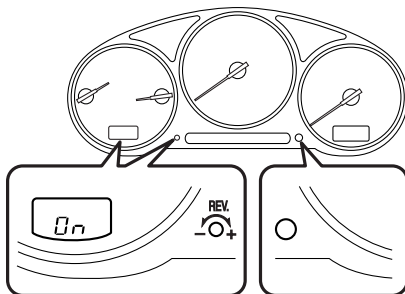
■指針初期作動

レッドルミネセントメーターとホワイトルミネセントメーターは、エンジンスイッチをONに回すとメーターの4つの指針が一度最大値を指し、すみやかに戻ります。(STI spec Cを除く)

●設定方法

STIは指針初期作動を以下の方法で設定または解除することができます。

- ①エンジンスイッチが ON 位置のとき、REVインジケーター設定ノブを左右どちらかに回したまま、トリップ切り替え／トリップメーターリセットノブを押すと設定、または解除できる状態になります。
このときブザーが鳴り、外気温表示を初期作動設定表示に切り替えます。初期作動マークと「ON」または「-」と表示をします。



300307

- ②トリップ切り替え／トリップメーターリセットノブを押すごとに設定の切り替えができます。

「On」 : 作動あり
「-」 : 作動なし

- ③REVインジケーター設定ノブを戻すとブザーが鳴り、作動の設定が完了します。
3秒後に外気温表示に戻ります。

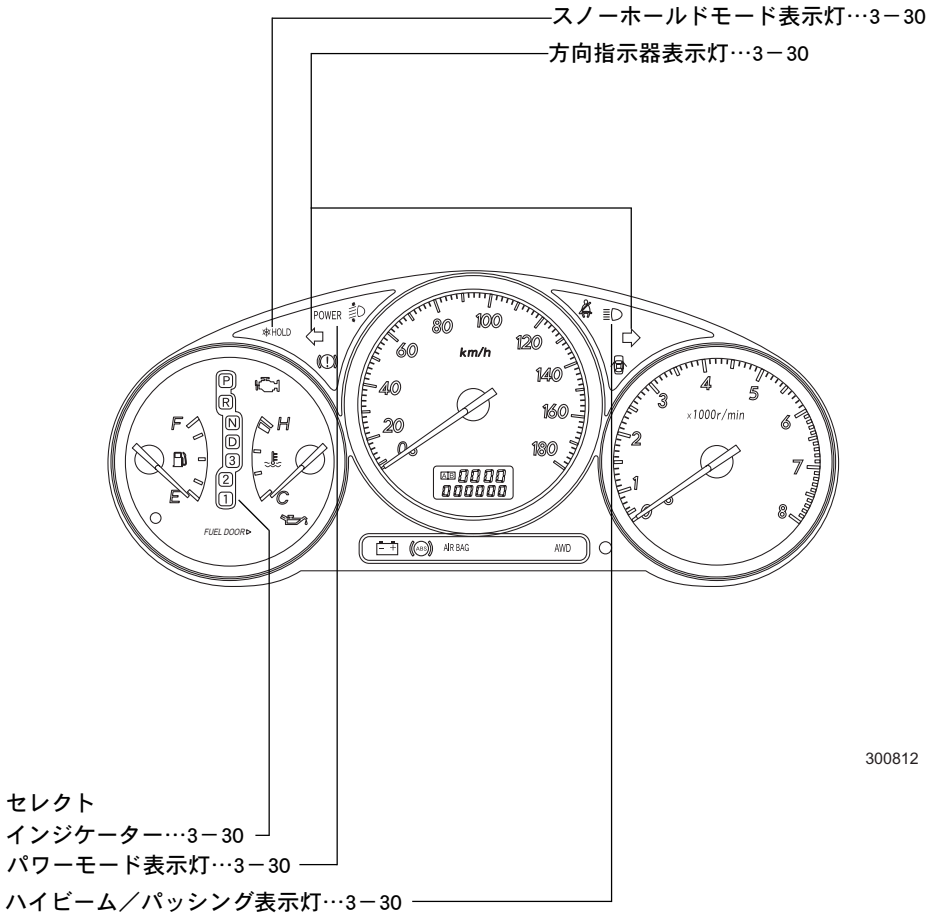


アドバイス

バッテリー端子が外され、再度付けられたときなどは初期作動ありになります。

表示灯

< 1.5i、1.5R >

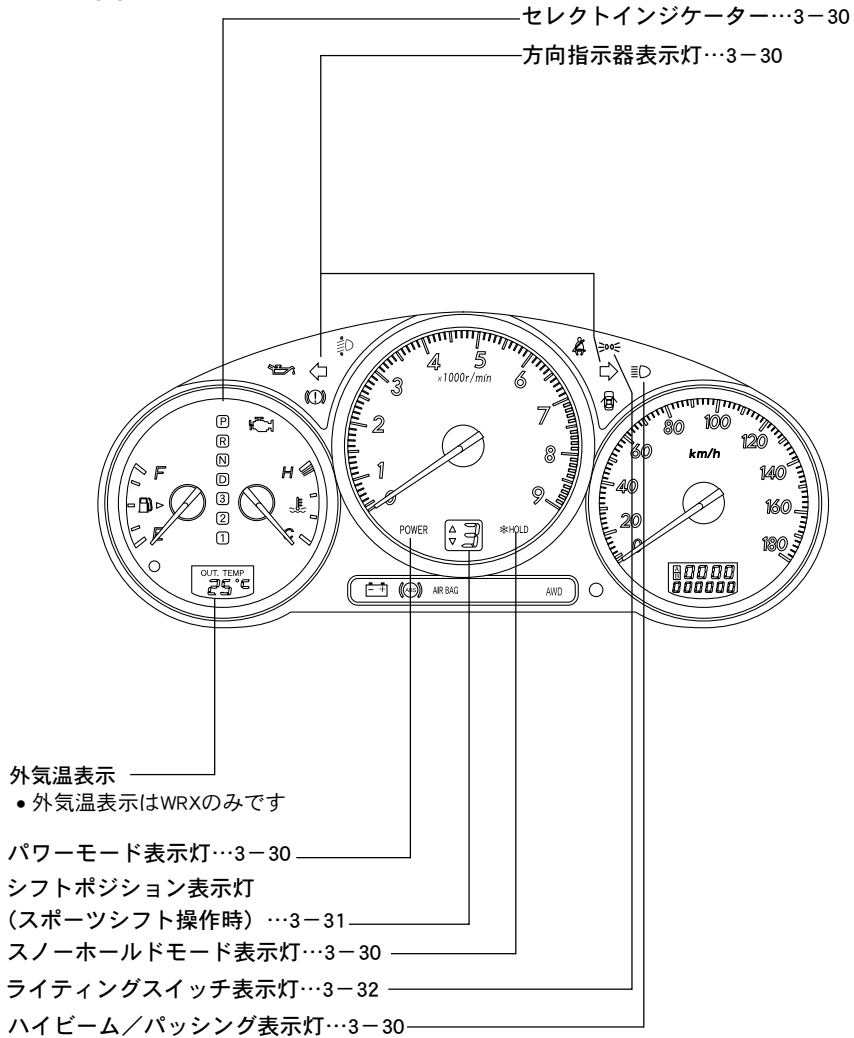


運転するとき

300812

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

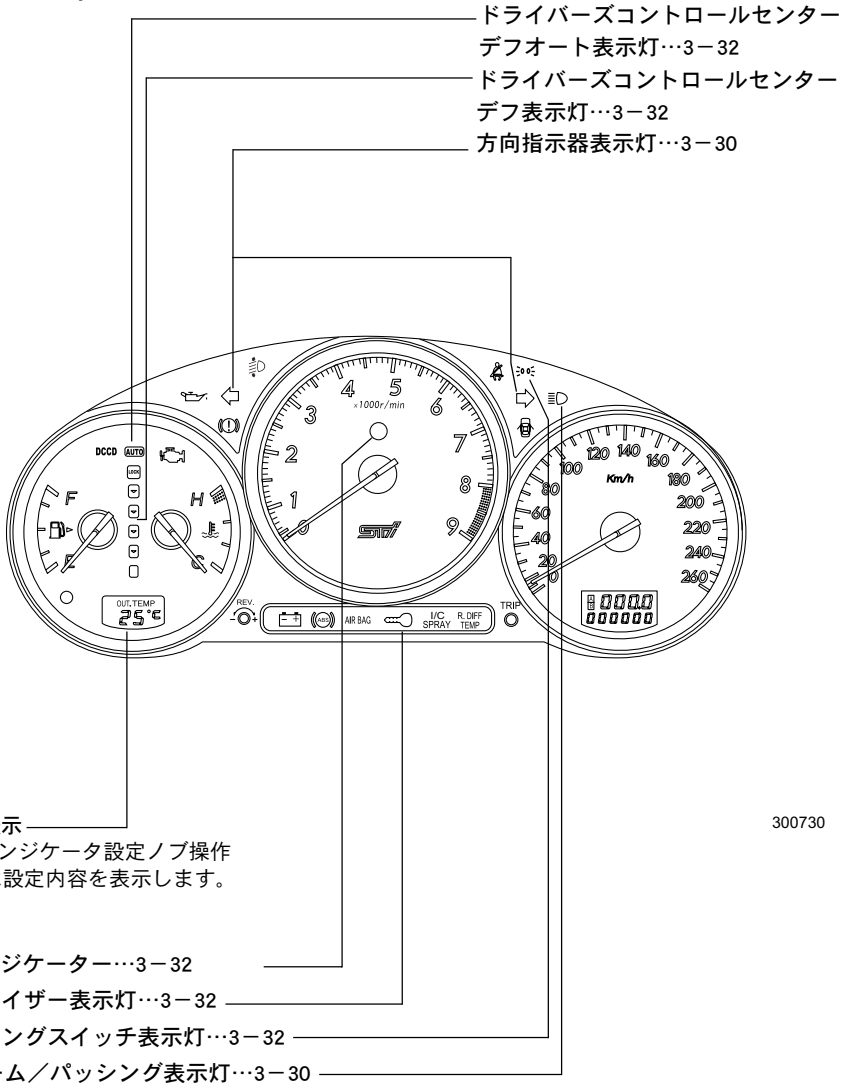
<1.5R 、WRX>



300813

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

<STI、STI spec C>



運転するとき

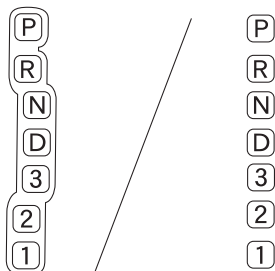
300730

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

IMPREZA GD2-009301~099999, GD3-006701~099999,
GDA-020201~099999, GDB-040301~099999,
GDC-002001~099999, GDD-002001~099999,
GG2-079301~099999, GG3-048601~099999,
GGA-014601~099999, GGC-002001~099999,
GGD-002001~099999

■セレクトインジケーター (オートマチック車の装備)

セレクトレバーの位置を示します。



300932

☆3-45ページ参照

■方向指示器表示灯

方向指示器の点滅を示します。



アドバイス

方向指示器の電球やヒューズが切れたときあるいはワット数の異なった電球を使うと点滅の早さが異常になります。すみやかに点検し、異常のある電球やヒューズを交換してください。

☆7-15ページ参照

■パワーモード表示灯 (オートマチック車) POWER の装備

パワーモードを選択したときに点灯します。

☆3-55ページ参照

注意

パワーモード表示灯が点滅を繰り返したときは、オートマチック制御システムの異常を知らせています。すみやかにスバル販売店にご連絡ください。

アドバイス

パワーモード表示灯はエンジンスイッチをONにしたとき点灯し、エンジンが始動してから約2秒後に消灯します。

■スノーホールド モード表示灯 (オートマチック車) の装備

※HOLD

スノーホールドモードを選択したときに点灯します。

☆3-55ページ参照

■ハイビーム/パッシング表示灯



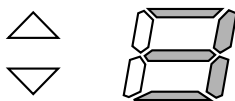
ヘッドランプが上向きするとき点灯します。

また、パッシング時も点灯します。

■シフトポジション表示灯 (スポーツシフト装備車)

スポーツシフトでマニュアルモード選択時、現在のシフトポジションをデジタル表示します。

また、シフトアップ、シフトダウンへの変速が可能状態であるかを示す◀▶印が点灯します。

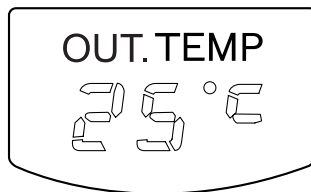


300244

☆3-54ページ参照

■外気温表示

外気温度を表示します。



300245

表示温度範囲は-30℃~50℃です。
(REV インジケーター装備車では設定内容も表示します。☆3-25ページ参照)

アドバイス

- 下記の場合、エンジンの熱や路面の照り返しにより、外気温度を正しく表示しないことがあります。
 - ・ 停車時
 - ・ 渋滞時
 - ・ 低速走行時
 - ・ 走行後の再始動時
- 液晶表示は偏光サングラスを使用すると見えにくくなる場合があります。

運転するとき

■ドライバーズコントロールセンターデフオート表示灯 **AUTO**

電子制御ドライバーズコントロールセンターデフ（オートモード）付車はAUTO制御中、AUTO表示灯が点灯します。

☆3-59ページ参照

■ドライバーズコントロールセンターデフ表示灯

イニシャルLSDトルクの目安が表示されます。

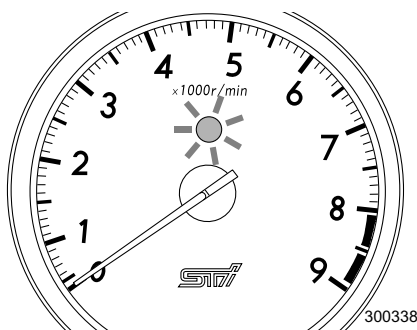


300330

☆3-59ページ参照

■REVインジケーター



設定回転を超えている間点灯します。



300338

☆3-25ページ参照

■ライティングスイッチ表示灯

ライティングスイッチが  または  位置時に点灯します。



■イモビライザー表示灯

通常は点滅しています。

エンジンスイッチにキーを差し込むと消灯します。



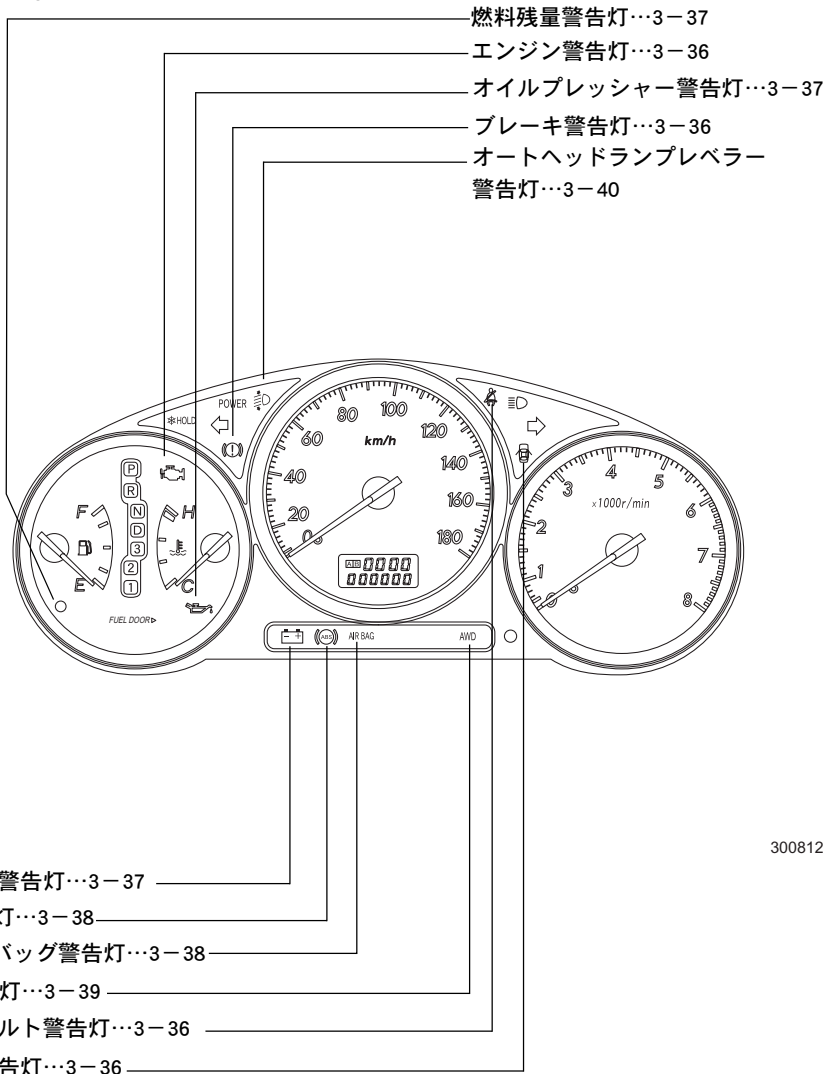
注意

登録されていないキーを使用すると表示灯が点灯します。

☆2-3ページ参照

警告灯

< 1.5i、1.5R >

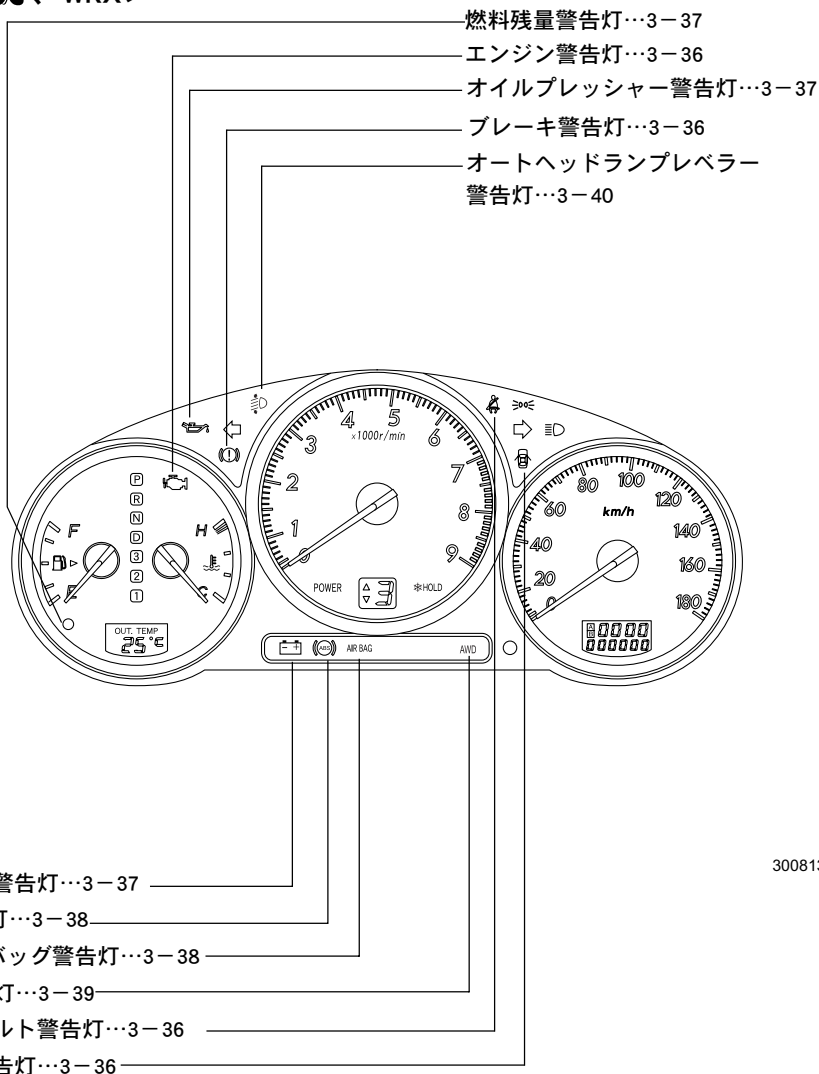


運転するとき

300812

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

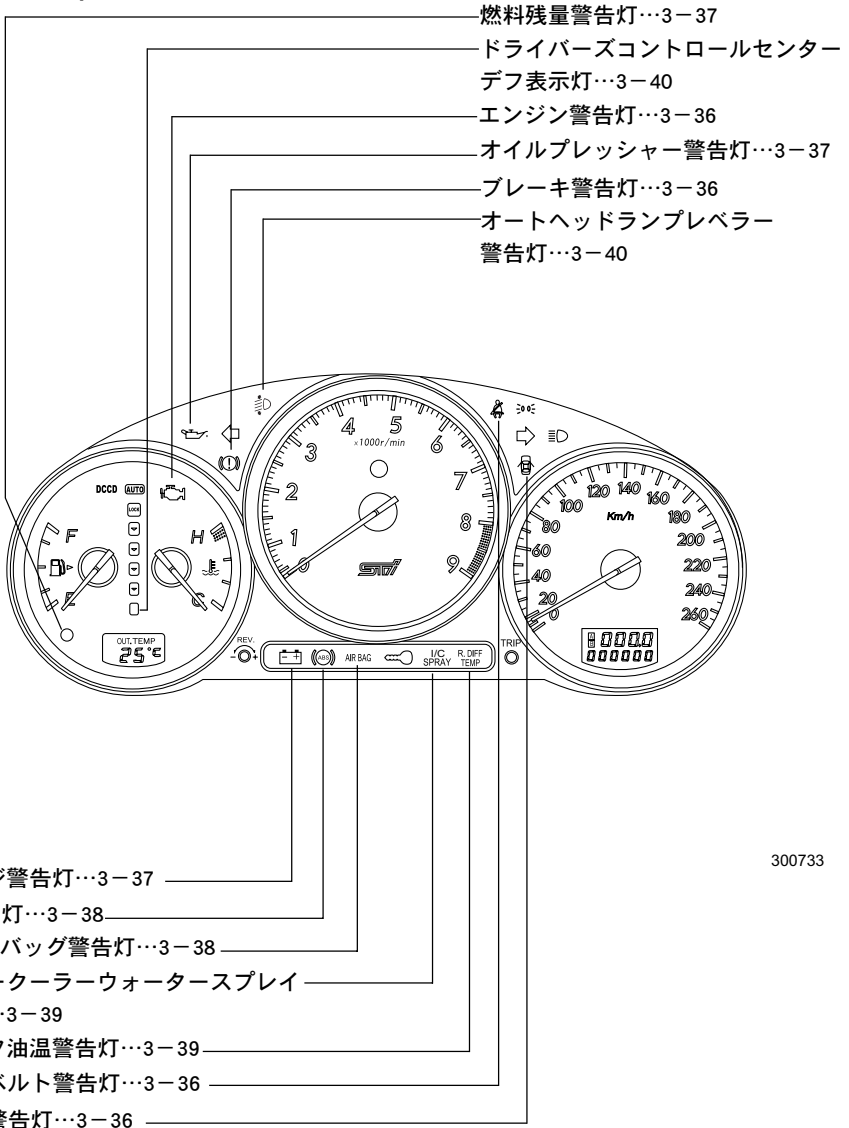
<1.5R 、WRX>



300813

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

<STI、STI spec C>



運転するとき

300733

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

■エンジン警告灯

エンジンスイッチ ON で点灯し、エンジン始動後消灯します。



エンジン回転中、エンジン電子制御システムの異常があると点灯します。

⚠ 注意

点灯したときは

エンジン回転中に点灯したときは、エンジン電子制御システムに異常があります。

高速走行を避け、直ちにスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

■ブレーキ警告灯

エンジン回転中、次の場合に点灯します。



- 駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないとき
- ブレーキ液が著しく不足しているとき
- EBD (エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション) の電子制御システムに異常があるとき
EBD の電子制御システムに異常があるときはABS警告灯も同時に点灯します。

☆3-63ページ参照

⚠ 注意
<ul style="list-style-type: none">● エンジン回転中に駐車ブレーキレバーを戻しても消灯しないとき、またはブレーキ液を補充しても消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡し点検を受けてください。● ブレーキ液が正常で、ABS警告灯も同時に点灯している場合は、ABS (アンチロックブレーキシステム) に異常が発生している可能性があります。そのため、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■シートベルト警告灯

エンジンスイッチが ON のとき、運転者がシートベルトを装着していないときに点灯します。
☆2-32ページ参照



■半ドア警告灯

エンジンスイッチの位置に関係なくドアが完全に閉じていないときに点灯します。
リヤゲートが完全に閉じていないときも点灯します。



⚠ 注意
警告灯が点灯したままの状態では走行しないでください。

■燃料残量警告灯

エンジンスイッチが ON のとき、燃料残量が下記の残量以下になると点灯します。

約9ℓ以下 (WRX、STI)

約7ℓ以下 (1.5i、1.5R、STI spec C)



🏠 アドバイス

- 点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

■オイルプレッシャー警告灯

エンジンスイッチ ON で点灯し、エンジン始動後消灯します。

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常があると点灯します。



⚠️ 注意

点灯したときは

走行中に点灯したときは、直ちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてエンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が正常にもかかわらず点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

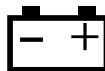
🏠 アドバイス

オイルプレッシャー警告灯はオイル量を示すものではありません。オイル量の点検はオイルレベルゲージで行ってください。

■チャージ警告灯

エンジンスイッチ ON で点灯し、エンジン始動後消灯します。

エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。



⚠️ 注意

エンジン回転中に点灯したときは、発電機の駆動ベルト切れなどが考えられます。直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店で点検を受けてください。

運転するとき

■ABS警告灯

エンジンスイッチを ON にしたとき約2秒間点灯し、消灯します。



ABS（アンチロックブレーキシステム）の電子制御システムに異常があると点灯します。

☆3-62ページ参照

注意

警告灯が点灯するとABSは作動せず通常のブレーキとして作動します。走行上支障ありませんが、滑りやすい路面では気をつけて運転し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

警告灯が下記の場合は正常です。

- エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、車速12 km/hになったとき消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

■SRSエアバッグ警告灯

AIR BAG

エンジンスイッチを ON にしたときから約6秒間点灯し、消灯するのが正常です。

運転席・助手席エアバッグ、サイドエアバッグ（装備車）、シートベルトプリテンショナーのいずれかに異常があると点灯します。

警告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せずけがをすおそれがあります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチを ON にしても点灯しないとき
- 走行中に点灯したとき

注意

上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

■AWD警告灯

エンジンスイッチ ON で点灯し、エンジン始動後消灯します。

AWD

●ターボ車以外

スペアタイヤに交換するため AWD を解除し、2WD（二輪駆動）にしたとき点灯します。また、異なる径のタイヤをいずれかの車輪に取り付けて走行したとき点滅します。または4本のタイヤのいずれかの空気圧が著しく低下したまま走行しているときに点滅する場合があります。

☆3-58ページ参照

●ターボ車

異なる径のタイヤをいずれかの車輪に取り付けて走行したとき点滅します。または4本のタイヤのいずれかの空気圧が著しく低下したまま走行しているときに点滅する場合があります。

注意

- AWD警告灯が点滅したまま走行を続けると駆動装置が損傷する可能性があります。AWD 警告灯が点滅したときは、すみやかに安全な場所に駐車し、4本のタイヤ径が同じかどうか、また、タイヤのパンクもしくは空気圧の低下がないかどうか確認してください。
- タイヤに異常がない場合にはすみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■インタークーラー ウォータースプレイ I/C 残量警告灯 SPRAY

インタークーラーウォータースプレイのタンク内水量が少なくなると点灯します。

☆3-18ページ参照

■リヤデフ油温警告灯 R. DIFF TEMP

リヤデフの油温が上昇したときに点灯します。点灯するとドライバーズコントロールセンターデフが作動しなくなります。

点灯が予想される条件


- オフロードやラリーなどのシビアな走行をした場合
- 急な登り坂をけん引走行するなどリヤデフに高負荷がかかった場合
- タイヤが適正空気圧になっていない場合
- 前後で異なる銘柄、異なるサイズのタイヤを装着した場合
- 応急用スペアタイヤを装着し、高速走行、長時間走行した場合

点灯した場合はすみやかにリヤデフオイルを交換してください。

運転するとき


 **注意**

- 警告灯が点灯したときは、直ちに安全な場所に停車してリヤデフを冷やし、上記の点灯が予想される条件を点検して必要な処置を行ってください。
- 点灯したまま走行を続けると、駆動系損傷の原因となります。
- リヤデフが冷えた状態や、上記の点灯が予想される条件を取り除いても点灯している場合には、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■ ドライバーズコントロールセンターデフ警告灯 



ドライバーズコントロールセンターデフ故障時（コントロールユニット、センサー類、断線、ショートなど）イニシャルLSDトルク最小（0）位置（緑□）のランプが1秒周期で点滅します。

 **注意**

点滅したまま走行を続けると、駆動系損傷の原因となります。すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■ オートヘッドランプレベラー警告灯 



エンジンスイッチをONにしたとき約3秒間点灯し、消灯します。エンジン回転中、自動光軸調整機構（オートヘッドランプレベラー）の電子制御システムに異常があると点灯します。

 **注意**

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止のしかた

エンジンをかける前に安全を確認めます。

警告

車庫や屋内などの換気の悪いところで、エンジンをかけたままにしないでください。

車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

注意

- エンジンを始動するときは必ず運転席に座って行ってください。
- 10秒以上スターターを回し続けしないでください。
スターターが故障する原因になります。かからないときは一旦、スイッチをOFFに戻し、10秒間放置してからもう一度エンジンスイッチを回し、スターターを回します。
- エンジンがかかった後は水温計の指針が中央付近になるまでの間、アイドリング回転が高めに保たれます。

■エンジンの始動 (マニュアル車)

●エンジンをかける前に

- ①駐車ブレーキが引いてあるか確認します。
- ②チェンジレバーがニュートラル位置であることを確認します。

●エンジンのかけかた

- ①運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ②クラッチペダルをいっぱいに踏みます。
- ③エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。(10秒以内)

アドバイス

<クラッチスタートシステム>

マニュアル車には誤操作防止のため、クラッチペダルをいっぱい踏み込まないとスターターが回らずエンジンがかからないようになっています。

■エンジンの始動 (オートマチック車)

●エンジンをかける前に

- ①駐車ブレーキが引いてあるか確認します。
- ②セレクトレバーが[P]であることを確認します。(Nでも始動できますが、安全のため[P]で始動してください。)

●エンジンのかけかた

- ①運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ②エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。(10秒以内)



アドバイス

- エンジンの始動直後は、急激な空吹きや、急加速などをしないでください。
- エンジンがかかった後はエンジン回転が高めに保たれます。暖機が終わると自動的に下がります。
- エンジンの始動はアクセルペダルを踏まずにエンジンが始動するまでエンジンスイッチをSTARTに回します。
- エンジンがかかりづらいときは、駐車ブレーキを再確認後、アクセルペダルをわずかに（1/4程度）踏み込んで、エンジンスイッチをSTARTに回します。エンジンがかからない場合はアクセルペダルをいっぱい踏み込んでエンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかかったらすみやかにアクセルペダルから足を放してください。

それでもかからないときは、もう一度アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかからなければスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

- 使用するガソリンや使用状態（水温計の指針が動かない程の距離の走行を繰り返す）によっては、エンジンがかかりにくくなることがまれに発生します。その場合、他ブランドのガソリンに切り替えることをお奨めします。
- 始動の際、ライティングスイッチ、エアコンスイッチ、リヤウインドウデフォグスイッチをOFFにしたほうが、容易に始動します。

- 極低温時に、リモコンエンジンスターターを使用すると、始動できない場合もあります。また、純正以外のリモコンエンジンスターターを使用すると、エンジンがかかりにくい場合や、スパークプラグのくすぶりを引き起こすことがあります。
- 急発進、急加速時等、急なアクセル操作時、まれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。

■エンジンの停止

アイドリング回転数に落としてからエンジンスイッチを切ります。



アドバイス

車両が停止した直後は、エンジン回転がアイドリング回転数に戻るまで時間が多少かかることがあります。

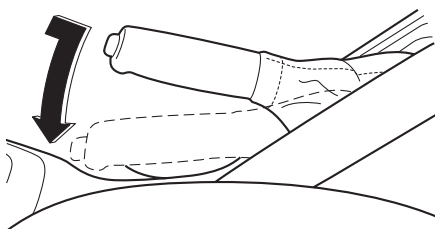
駐車ブレーキレバー

■使用するとき

ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引き上げます。同時にメーター内の「ブレーキ警告灯」も点灯します。

■戻すとき

レバーを軽く引き上げ、ボタンを押しながから完全に下まで戻します。戻したとき「ブレーキ警告灯」が消灯していることを確認してください。



300095

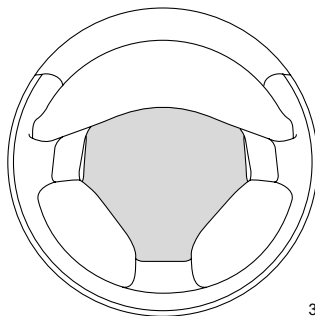
⚠ 注意

駐車するとき、走行するとき

- 駐車するときは車が動き出さないように確実にレバーを引いてください。
- 走行するときはレバーを完全に戻し、ブレーキ警告灯が消灯していることを確かめてください。レバーを引いたまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗したり、後輪ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。

ホーンスイッチ

ハンドル中央のパッド面を押すとホーンが鳴ります。



300096

🏠 アドバイス

エンジンスイッチの位置に関係なくホーンを鳴らすことができます。

運転するとき

マニュアル車の運転

チェンジレバー

⚠ 注意

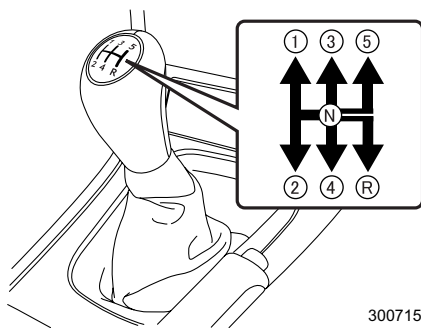
- “R” に入れるときは車が完全に止まり、エンジン回転がアイドリング回転まで下がってからゆっくりと入れてください。エンジン回転が高いままだとトランスミッションを損傷させることがあります。
- 半クラッチの連続使用はしないでください。クラッチ早期摩耗の原因になります。

📌 アドバイス

変速時、ギヤが入りにくい場合は、一度クラッチを踏み直すと入りやすくなります。

■5速マニュアル車のチェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで確実に操作してください。

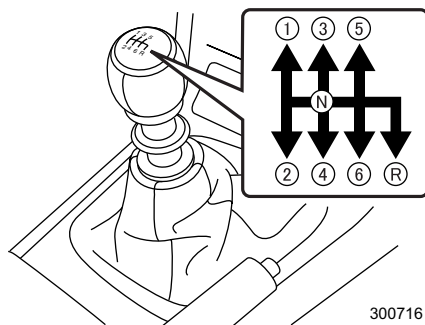


⚠ 注意

5速マニュアル車は誤操作を防ぐため、“5” → “R” へ直接入れることはできません。一度 “N” に入れてから “R” に入れてください。

■6速マニュアル車のチェンジレバーの操作

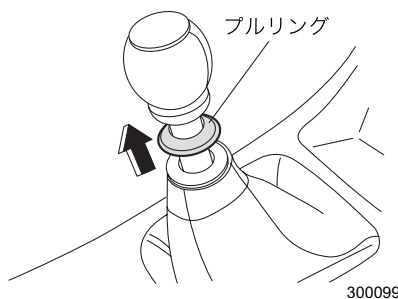
変速するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで確実に操作してください。



“R” に入れるときはプルリングを引き上げたままレバーを操作してください。

“R” に入れるとブザーが鳴ります。(spec C は除く)

レバーを “N” に戻すと、プルリングは元の位置に戻ります。



⚠ 注意

レバーを “N” に戻してもプルリングが元の位置に戻らないときはシステムの異常が考えられます。この場合スバル販売店で点検を受けてください。

オートマチック車の運転

セレクトレバー

■各位置での働き

<div style="text-align: center; border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">P</div> <p>(パーキング)</p>	<p>駐車およびエンジン始動位置</p>	<p>駐車の際は必ず駐車ブレーキをかけて[P]にしてください</p>
<div style="text-align: center; border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">R</div> <p>(リバース)</p>	<p>後退位置</p>	<p>ブザーが鳴り、ドライバーに[R]であることを知らせます。</p>
<div style="text-align: center; border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">N</div> <p>(ニュートラル)</p>	<p>中立位置</p>	
<div style="text-align: center; border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">D</div> <p>(ドライブ)</p>	<p>通常走行位置</p>	<p>車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて1速⇄2速⇄3速⇄4速を自動的に変速します。</p>
<div style="text-align: center; border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">3</div> <p>(サード)</p>	<p>登・降坂路走行位置</p>	<p>エンジンブレーキが必要なとき、登り坂走行などで使います。1速⇄2速⇄3速に自動的に変速します。</p>
<div style="text-align: center; border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">2</div> <p>(セカンド)</p>	<p>登・降坂路走行位置</p>	<p>さらに強くエンジンブレーキが必要なとき、急な登り坂、湿った砂地などで使います。1速⇄2速に自動的に変速します。</p>
<div style="text-align: center; border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">1</div> <p>(ファースト)</p>	<p>登・降坂路走行位置</p>	<p>強力なエンジンブレーキが必要なとき、急な登り坂、砂地、泥道からの脱出などに使います。1速に固定されます。</p>

運転するとき

☆1-10ページ参照

警告

発進時は絶対にアクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作をしないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

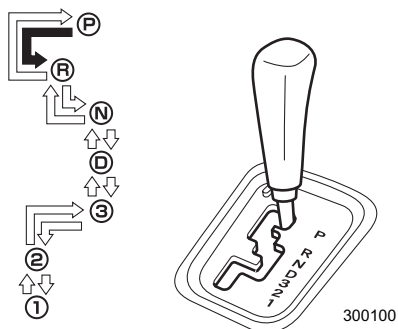
注意

- **P**でエンジンをかけてください。
Nでもエンジンはかかりますが、安全のため**P**でかけてください。
- **P**、**R**に入れるときは、車が完全に止まってからセレクトレバーを操作してください。トランスミッションを損傷させるおそれがあります。
- 切り返しのとき、**D**→**R**、**R**→**D**と何度もレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルを確実に踏み、車を完全に止めてから行ってください。
- **R**に入れるとブザーが鳴り、**R**であることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。
- 後退した後は、すぐに**R**から**N**に戻す習慣をつけてください。

アドバイス

- オートマチック車は低水温時に暖機促進や走行性を良くするため、変速タイミングを通常時より高回転側にしています。(暖機が進むと、自動的に通常の変速タイミングに戻ります。)
- 通常**D**で走行中はよりスムーズな走りを実現するため、下記の制御を行っております。
 - ・ Nコントロール
(1.5RおよびWRXの機能)
このトランスミッションには「Nコントロール」機能が装備されています。ノーマルモードもしくはパワーモード選択時(1.5Rはノーマルモードのみ)、車が完全に停止した後、セレクトレバーが**D**のままアイドル状態でブレーキペダルを踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。
「Nコントロール」機能が装備されているため、一時停止などからの再発進時、ブレーキペダルから足を放してギヤがつながるまで若干時間(約1秒)がかかります。
 - ・ 登坂制御
登坂での不要なアップ・ダウンを防ぎます。
 - ・ 降坂制御
急な降坂路でブレーキを踏んだとき、エンジンブレーキを効かせるために通常より高い車速でシフトダウンする場合があります。

■ゲート式セレクトレバーの操作方法



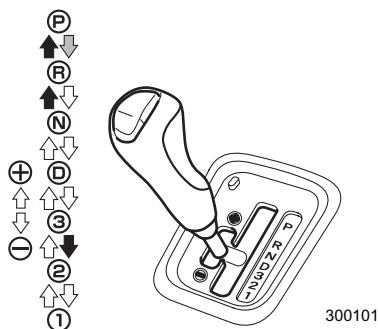
レバーは、各位置でしっかりと止まるところまで確実に動かしてください。

↓	ブレーキペダルを踏まないと操作できません。 ブレーキペダルを踏んだまま、ゲートに沿って動かします。
↓	そのままゲートに沿って動かします。

🏠 アドバイス

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- [P]**のときは、レバーを助手席側に動かしたままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチがLOCKまたはAccのときは、ブレーキペダルを踏んでも**[P]**から他の位置に切り替えられません。

■スポーツシフト付セレクトレバーの操作方法



レバーは、各位置でしっかりと止まるところまで確実に動かしてください。

↓	ブレーキペダルを踏まないと操作できません。 ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押して操作します。
↓	ボタンを押さずに操作します。
↓	ボタンを押したまま操作します。

🏠 アドバイス

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- [P]**のときは、レバーを手前側に動かしたままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチがLOCKまたはAccのときは、ブレーキペダルを踏んでも**[P]**から他の位置に切り替えられません。

運転するとき

■シフトロックシステム

セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

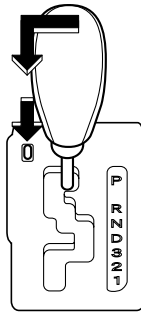
- [P]からのレバー操作は、エンジンスイッチをONにし、ブレーキペダルを踏まないと操作できません。
- ゲート式セレクトレバー装備車の場合、レバーを[P]から他の位置に操作するとき、先にセレクトレバーを横に押してからブレーキペダルを踏むとレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。
- [P]以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。
([P]以外ではキーをAccからLOCKに回しません)
- [N]でエンジンスイッチをOFFにした場合、しばらくするとレバーを[P]に操作することができなくなる場合がありますので直ちに[P]へ操作してください。
もし、セレクトレバーが[N]から[P]に操作できないときは、エンジンスイッチをONにしてから[P]へ操作してください。あるいは、シフトロック解除ボタンを押しながらレバーを[P]へ操作してください。

●シフトロックの解除

バッテリー上がりやヒューズ切れ等で、セレクトレバーを[P]から動かすことができないときは、シフトロック解除ボタンを押してシフトロックの解除をします。

スポーツシフト装備車以外：

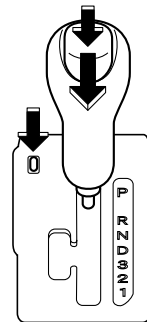
ブレーキペダルを踏みながら、シフトロック解除ボタンを押した状態でセレクトレバーを動かします。



100079

スポーツシフト装備車：

ブレーキペダルを踏みながら、シフトロック解除ボタンとセレクトレバーボタンを押した状態でセレクトレバーを動かします。



100549

この場合は、シフトロックシステムの故障が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

運転手順

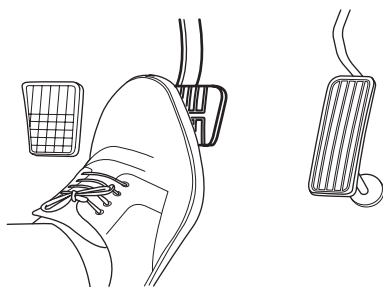
■エンジンをかける前に

- ①正しい運転姿勢をとります。ペダルを確実に踏むことができ、ハンドル操作が楽にできるように、ハンドルの位置、シートの位置を調整してください。

☆2-23ページ参照

- ②アクセルペダルの位置を右足で確認します。
③ブレーキペダルの位置を右足で確認します。

⚠ 注意



300102

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認して足に覚えさせてください。(踏み間違いは事故につながるおそれがあります。)

■エンジン始動

- ①駐車ブレーキレバーが確実に引いてあることを確認します。
②セレクトレバーが[P]であることを確認します。

⚠ 注意

[N]でも始動できますが、安全のため[P]で行ってください。

- ③ブレーキペダルを右足で踏みます。(アクセルペダルは踏まないこと)
④エンジンスイッチをSTARTに回し、エンジンを始動します。

🏠 アドバイス

エンジンがかかりにくいときにアクセルペダルを踏みながら始動する場合は、始動してすぐブレーキペダルに踏み換えてください。

運転するとき

■発進

- ①ブレーキペダルを右足で踏んだままにします。

警告

確実にブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを操作してください。アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して重大な事故につながるおそれがあります。

- ②セレクトレバーを[D]（前進）または[R]（後退）に入れます。
③セレクトレバーの位置を確認します。
④駐車ブレーキレバーを戻します。
⑤右足をブレーキペダルからアクセルペダルに踏み換えゆっくりと加速します。

注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドル回転が高くなり、クリーブ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

☆1～10ページ参照

- 後退するときには車の後方に人や障害物がないことを確認してください。車内にブザーは鳴りますが、車外の人には聞こえません。

アドバイス

急な坂道での発進は、セレクトレバーの位置を確認し

- ①駐車ブレーキレバーを引いたままブレーキペダルを放し、アクセルペダルをゆっくり踏みます。
②車が動き出す感覚を確認しながら、駐車ブレーキレバーをゆっくりと解除して発進します。

■走行

通常の走行：

[D]で走行します。アクセルとブレーキの操作だけで自動的に変速され走行できます。

急加速：

アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します。

☆1～10ページ参照

上り坂では：

坂の勾配に応じ、セレクトレバーを[3]、[2]、[1]にしておく、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂では：

エンジンプレーキを併用してください。

☆1～17ページ参照

急な下り坂では：

②または①に入れると、さらに強いエンジンブレーキがかかります。

警告

走行中はセレクトレバーをNにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは、道路状況や車間距離に注意して行ってください。

アドバイス

急発進、急加速時、急なアクセル操作時にはまれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。

■駐車

①車を完全に止めます。

注意

車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。トランスミッション損傷の原因となります。

②ブレーキペダルを踏んだままの状態ですべてのブレーキレバーを確実に引きます。

③セレクトレバーをPに入れます。セレクトレバーがPのときは車が動き出す心配がなくより安全です。

④エンジンを止めます。

☆1-20ページ参照

注意

車から離れるときは、必ずセレクトレバーをPに入れ、エンジンを止めてください。

運転するとき

■ 停車

- ① **D**のままブレーキペダルを確実に踏みます。

注意

エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリープ（車が動き出す）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂で**P** **N**以外に入れた状態で、アクセルをふかしながら車を停止させたりしないでください。トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

- ②必要に応じて駐車ブレーキレバーを引きます。
- ③長時間停車するときは**P**にします。
- ④停車後、再発進するときは、セレクトレバーが**D**にあることを確認して発進します。

注意

- 空吹かしをしないでください。急発進の原因となります。
- 停車中にセレクトレバーを動かすときはブレーキペダルを確実に踏んでください。
- 急な上り坂での停車は、クリープ現象で前に進もうとする力よりも、後退しようとする力の方が大きくなり車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み込み、確実に駐車ブレーキレバーを引いてください。

アドバイス

1.5RおよびWRXには、「Nコントロール」機能が装備されています

Dでノーマルモードもしくはパワーモード選択時（1.5Rはノーマルモードのみ）、車が完全に停止した後、セレクトレバーが**D**のままアイドリング状態でブレーキペダルを踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。

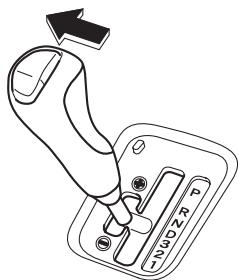
再発進時はブレーキペダルから足を放してギヤがつながるまで若干時間（約1秒）かかります。

アクセルペダルを踏むとギヤはつながりますが、急な上り坂での再発進時は、駐車ブレーキを併用することをお奨めします。

スポーツシフト

■マニュアルモード

セレクトレバーを[D]からマニュアルゲートに動かすとマニュアルモードになります。



300336

⚠ 注意

スポーツシフト操作時は以下の注意をよくお読みください。

- オートマチックトランスミッションの油温が通常時より低い場合、また高い場合、オートマチックトランスミッション保護のため、ピーピーピーとブザーが鳴り、シフト表示は“-”と表示されます。マニュアルゲートから[D]にレバーを戻してください。
- マニュアルモードでは自動的にシフトアップしません。その時の道路状況に合わせて、エンジン回転がレッドゾーンに入らないように適切にシフトチェンジしてください。また、エンジン回転数が規定の回転数に達すると燃料カットが働きます。シフトアップ操作をしてください。

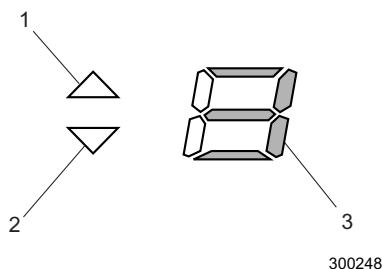
- シフトダウン不可能な車速（シフトダウンすることによりエンジンの回転がレッドゾーン以上になる場合）でシフトダウン操作をした場合、“ビビ”とブザーが鳴り、運転者にシフトダウンできないことを知らせます。
- 低過ぎる車速でシフトアップを行った場合、変速しません。
- セレクトレバーまたはシフトスイッチをすばやく2回操作すると、ギヤを1段飛びこします。
- 車が停車したとき、自動的にギヤは1速になります。
- マニュアルモードでは、スノーホールドモードスイッチをONにしてもマニュアルモードが優先されます。スノーホールドモードを使用する場合、マニュアルゲートから[D]にレバーを戻してください。

運転するとき

■シフトポジション表示灯

マニュアルモードが選択されるとメーター内の表示部に現在のギヤ位置が数字で表示されます。

シフトアップが可能な場合は数字の横に“▲”、シフトダウンが可能な場合は数字の横に“▼”が表示されます。



- ①シフトアップ可能表示灯
- ②シフトダウン可能表示灯
- ③変速ギヤ表示

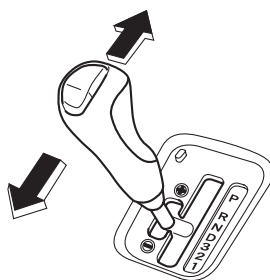
●シフトアップ、ダウン変速可否表示

表示	変速の可否
▲点灯	シフトアップ可能
▼点灯	シフトダウン可能
▲▼点灯	シフトアップ・ダウン可能
△▽消灯	シフトアップ・ダウン不可

■シフト操作

●セレクトレバー

1 段上のギヤに変速するときはセレクトレバーを ⊕ 方向に押しします。1 段下のギヤに変速するときはセレクトレバーを ⊖ 方向に引きします。



300337

●マニュアルモードの解除

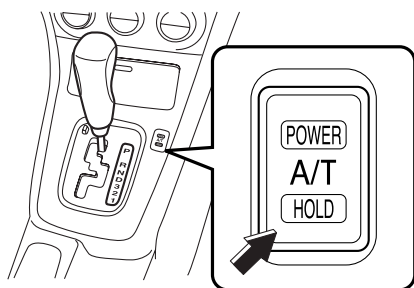
マニュアルモードを解除するときは、セレクトレバーをマニュアルゲートから **D** に移動させます。

スノーホールドモードスイッチ

セレクトレバーが[2]・[3]・[D]のときスイッチを押すと2速からの発進となるため、雪道など滑りやすい路面ではなめらかに発進できます。

スイッチをONにしたとき、変速は次のようになります。

セレクトレバー	変速
[D]	2速⇄3速⇄4速
[3]	2速⇄3速 発進時、極低速時は 2速になります。
[2]	2速固定



300063

🏠 アドバイス

- セレクトレバーがどの位置にあってもスイッチは押せますが、機能が働くのは[2]・[3]・[D]のときだけです。
- スイッチを押すと、スノーホールドモードになり、メーター内の「HOLD」表示灯が点灯します。

☆3-30ページ参照

パワーモードスイッチ

運転条件に応じて走行モード（ノーマルモード、パワーモード）を選択するスイッチです。

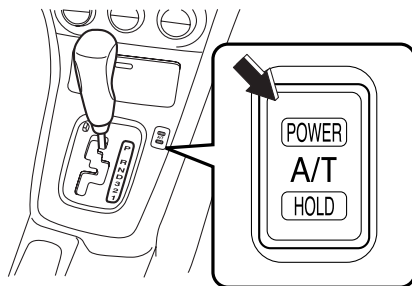
●ノーマルモードとは

燃費など経済性を重視したモードです。

●パワーモードとは

加速など走りを重視した走行モードです。

パワーモードでは変速点が高速側にセットされるためエンジン回転が高く保たれ、パワフルな走行ができます。



300064

運転するとき

🏠 アドバイス

スイッチが押されていないときは、「ノーマルモード」です。
スイッチを押すと「パワーモード」になり、メーター内の「POWER」表示灯が点灯します

☆3-30ページ参照

AWD※車の運転

運転するとき

※AWDとは、All Wheel Drive(オールホイールドライブ=全輪駆動)の略です。4輪車では4WD(四輪駆動)とも呼びます。

AWD車は、エンジンの動力を4輪全てに伝え、ラフロード(悪路、砂地、泥地)や急坂などで安定した走りを発揮します。

- タイヤが沈み込むような深い砂地、河川、海水中に乗り入れないでください。
やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入ると異常があるときは、すみやかに点検整備を受けてください。
- オフロード走行やラリー走行はしないでください。
この場合の故障は保証修理の対象にはなりませんのでご注意ください。
- AWD車は滑りやすい路面、積雪路などで2WDより安定した性能を発揮しますが、急ハンドル、急ブレーキでは2WD車とあまり差がありません。
カーブや下り坂、雪道や積雪路など滑りやすい路面では十分にスピードを落とし、安全な速度と車間をとって慎重に走行してください。

取り扱いについて

警告

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。
 - ・ 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン(溝模様)のタイヤを装着してください。
 - ・ 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - ・ 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - ・ タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - ・ 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。

ビスカスLSD付センターデフ方式 フルタイムAWD

マニュアル車の機構です

ビスカスカップリング付センターデフ機構を採用しています。前後輪に回転差が生じたとき、回転差に応じた駆動力が前後輪に配分され、雪道、ぬかるみ、滑りやすい路面で安定した走行性能を発揮します。

運転するとき

• 雪道走行が予測される場合は、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を使用してください。装着のときは、下記事項をお守りください。

- ・ 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- ・ 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- ・ 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- ・ タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

なお、一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップしやすく危険です。また、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は乾燥路では一般タイヤに比べ、グリップ性能が低下します。

- タイヤチェーンは非常時のみ、指定チェーンを前輪に取り付けてください。タイヤチェーンを取り付けると、前後の駆動力バランスが変わるため後輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 前輪のみの持ち上げけん引および、後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。

☆6-17ページ参照

IMPREZA GD2-009301~099999, GD3-006701~099999,
GDA-020201~099999, GDB-040301~099999,
GDC-002001~099999, GDD-002001~099999,
GG2-079301~099999, GG3-048601~099999,
GGA-014601~099999, GGC-002001~099999,
GGD-002001~099999

VTD-AWD

ターボのオートマチック車の機構です

VTD-AWD（不等&可変トルク配分電子制御AWD）を採用しています。走行状態、路面状態に応じて前後輪の駆動力配分を電子制御し、あらゆる路面で安定した走行性能を発揮します。

アクティブトルクスプリットAWD

ターボ車を除くオートマチック車の機構です

アクティブトルクスプリットAWDを採用しています。走行条件に合わせて後輪の駆動力配分を電子制御し、常に安定した走行性能を発揮します。

■全輪駆動の強制解除

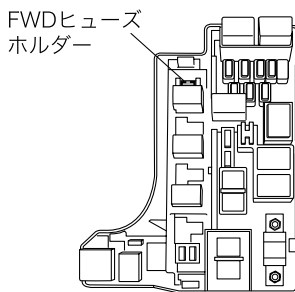
（ターボ車を除くAWDオートマチック車）

応急用スペアタイヤを装着するときは、全輪駆動を解除します。エンジンルーム内のFWDヒューズホルダーにヒューズカバー裏のスペアヒューズ（どれでも可能）をさし込みます。

全輪駆動が解除され前二輪駆動になったときは、メーター内のAWD警告灯が点灯します。

タイヤの修理あるいは交換後、すみやかにFWDヒューズホルダーからスペアヒューズを抜いて全輪駆動状態に戻してください。

☆6-25ページ参照



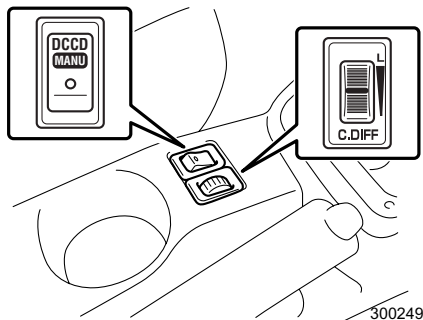
300637

抜いたスペアヒューズは、ヒューズカバー裏に戻します。

ドライバーズコントロールセンターデフ

STI車の機構です

ドライバーズコントロールセンターデフは、必要に応じて前後輪の差動制限（LSDトルク）を可変に調整できる機構です。種々の路面、走行状態に応じてダイヤル設定（イニシャルLSDトルクを設定）すれば、好みに応じた走行性能を発揮します。

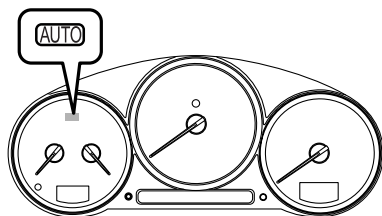


300249

■オートモード （オートモード装備車）

4輪車輪速センサ、スロットル開度センサ、ハンドル角センサ、ブレーキスイッチ、横G・ヨーレートセンサなどの信号から走行状態、路面状況を推定し、電子制御で自動的に前後輪の差動制限（LSDトルク）を調整する機構です。

オートモード選択時は表示灯が点灯します。



300250

■マニュアルモード

コントロールダイヤルを操作し、任意に差動制限（イニシャルLSDトルク）を調整することができます。オートモード付車は、下図のマニュアルモードスイッチを押し、AUTOのインジケータ表示を消灯させた後（消灯した後は、自動的にマニュアルモードへ移行）に調整可能になります。



300251

●コントロールダイヤルの操作

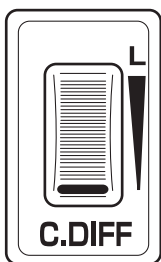
ダイヤルは駐車ブレーキレバーの横にあり、一番手前がイニシャルLSDトルク最小（0）、一番奥がイニシャルLSDトルク最大です。その中間は連続的にイニシャルLSDトルクを調整できます。

イニシャルLSDトルクを上げるほど車両の安定性は高くなりますが、カーブでは曲がりにくくなりますので、好みに合わせて調整してください。

一般的に滑りやすい路面ではイニシャルLSDトルクを上げて、滑りにくい路面ではイニシャルLSDトルクを下げる使いかたが有効です。また、雪道やぬかるみでタイヤがスリップしたときは、ダイヤルをLOCKにすると脱出しやすくなります。

運転するとき

イニシャルトルク最小 (0) :
メカニカルLSDのみの差動制限

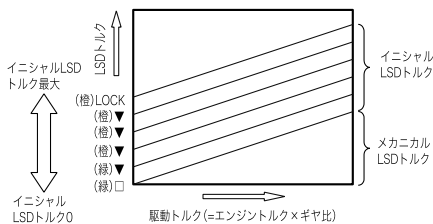


300252

イニシャルトルク最大 :
前後輪がほぼ直結状態



300344



300662

■デフロックの強制解除

オートモードおよびマニュアルモード (緑▼～橙LOCK) の差動制限中であっても、駐車ブレーキレバーを引けば瞬時にイニシャルLSDトルク最小 (0) の状態になります (パーキングブレーキ警告灯と連動)。ただしレバーを引いても表示灯の表示は変わりません。

レバーを戻せば設定したイニシャルLSDトルクに戻します。

■タイトコーナーブレーキング現象

表示灯橙▼点灯位置で、舗装路でのカーブ走行や右左折、車庫入れなどを行うと、前後輪の回転差により振動、音を伴ったブレーキング現象が発生する場合があります。これは異常ではなく、コントロールダイヤルをイニシャルLSDトルク最小 (0) にすると解消されます。

オートモードの場合は、自動的にイニシャルLSDトルクを制御します。オートモードの場合でも運転状態によっては、タイトコーナーブレーキング現象が発生する場合がありますが異常ではありません。

急加速、急カーブを走行中にコントロールダイヤルを操作すると、センターデフの差動により軽いショックを感じる場合がありますが正常です。

⚠ 注意

- 万能車ではありません。過信は禁物です。急ハンドルや急ブレーキ、急カーブや下り坂、雪道や凍結路などの滑りやすい路面は安全な速度で慎重に走行してください。
- タイヤが空転しているときコントロールダイヤルを絶対に切り替えないでください。空転が停止してから操作してください。
- マニュアルモードで停車時は、コントロールダイヤルを最小 (0) 位置にしてください。
- けん引時は、コントロールダイヤルを最小 (0) 位置にしてください。けん引は車載かロープけん引による場合のみ可能です。前輪または後輪だけを上げたけん引は絶対にしないでください。けん引時の注意事項については、「けん引」の項を必ずお読みください。

☆6-17ページ参照

- パンクなどで応急用タイヤを使っているときは、必ずコントロールダイヤルを最小 (0) にしてください。できるだけ早く標準タイヤを修理して付け替えてください。
- センターデフ故障時 (コントロールユニット、センサー類、断線、ショートなど) イニシャルLSDトルク最小 (0) 位置 (緑□) のランプが1秒周期で点滅します。すみやかにスバル販売店で点検整備を受けてください。一度異常が検出されるとエンジンスイッチがOFFになるまで保持されるので、途中で復帰しても表示灯は点滅したままになります。

- トランスミッションオイルはマニュアル専用のスバルギヤオイルをご用意ください。オイル交換は通常走行の場合40,000 km毎に、過酷な走行頻度が多い場合は早め実施してください。

使用 オイル	スバルギヤオイル エクストラS
交換時期	40,000 km

🏠 アドバイス

- 表示灯はあくまでも目安です。
- 表示灯はエンジンスイッチを ON にするとオートモード付車では AUTO 表示灯、オートモードなし車では設定した表示灯が点灯します。また、夜間ライト点灯時にダイヤルを早く動かしたときに表示が一瞬消えたように見えますが、正常です。
- 低速時、アクセルペダルを素早く操作したとき、センターデフからリヤデフ周辺部にかけて「コツコツ」音が発生する場合がありますが、センターデフの構造上発生する音であり正常です。
- 低速時、ハンドルをいっぱいまで切った旋回中、リヤデフから「コツコツ」音が発生する場合がありますが、機械式 LSD の構造上発生する音であり正常です。

運転するとき

ブレーキ

ABS：アンチロックブレーキシステム

急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキをかけたときに、タイヤのロック（車輪の回転が止まること）を防止して、車両の方向安定性を保ち、ハンドルの操作性を確保する装置です。

危険時はブレーキを確実に強く踏み続け、必要な場合はハンドルの操作で危険を回避してください。

ABSの電気系統に異常が生じた場合はABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されます。

■制動距離やハンドルの操作について

注意

- ABSは必ずしも制動距離を短縮する装置ではありません。
ABSの付いていない車両と同じように安全な車間距離をとって運転してください。
- ABSが作動した状態であっても車両の方向安定性、ハンドルの操作性には限界があります。ABSを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転に心がけてください。
- 下記の路面などでABSが作動した場合、ABSが付いていない車両よりも制動距離が長くなることがあります。
 - ・マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
 - ・道路のつなぎ目などの段差
 - ・凹凸路、石畳などの悪路
 - ・下り坂での旋回
 - ・路肩に草や砂利が多い道路
 - ・砂利道
 - ・雪路（新雪路、圧雪路、凍結路など）

- タイヤチェーン装着時にはABSの付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。
とくに速度を控えめにして車間距離を充分にとって運転してください。
- 車速が約10 km/h以下になるとABSは作動しません。

アドバイス

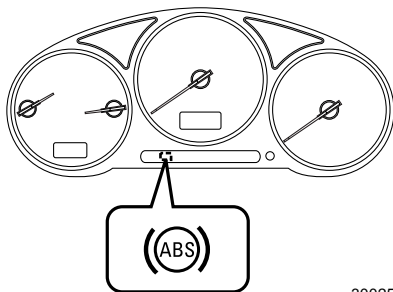
ABSが作動するとハンドルの操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。

■振動や音について

- ABSが作動したときは、ブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動を感じることがあります。
これはABSが作動している状態を表しており異常ではありません。そのままブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- エンジンをかけた後、最初の発進時に以下の場合がありますが、これはABS作動のチェックをしている動きで異常ではありません。
 - ・ エンジンルーム付近から一時的に作動音がする。
 - ・ ブレーキペダルを踏むタイミングによってペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じる。

■ABS警告灯

エンジンスイッチをONにしたとき約2秒間点灯し、その後には消灯するのが正常です。



300254

⚠ 注意

警告灯が下記の場合、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しない。
- 点灯したままのとき

なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。(ABSとしては作動しません)

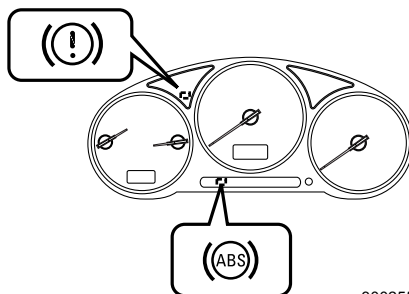
🏠 アドバイス

警告灯が下記の場合は正常です。

- エンジン始動時に警告灯が点灯してもすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

●EBD (エレクトロニック ブレーキ フォース ディストリビューション)

ブレーキをかけたときの前後輪の荷重変化や強いブレーキ時の制動力の変化に応じて、リヤブレーキをコントロールして、後輪の早期ロックを防止する装置です。



300255

⚠ 注意

EBDシステムに異常が発生した場合、ブレーキ警告灯とABS警告灯が点灯します。

点灯した場合システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

EBDシステムに異常があるときは後輪がロックしやすくなります。

🏠 アドバイス

- EBD が作動するとブレーキペダルに動きを感じたり、ABS 作動時に似た音が聞こえることがあります。
 - ブレーキ警告灯は駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないときや、著しくブレーキ液が不足したときも点灯します。
- ☆3-36ページ参照

ブレーキブースター（制動力倍力装置）

アドバイス

ブレーキブースター（制動力倍力装置）はエンジンの吸入負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減する装置です。

エンジンが停止している状態や長時間の駐車の後などでブレーキブースター内の負圧が不足している場合にブレーキペダルを踏むと（減速、停止するとき）通常よりも強い力が必要になります。

ハンドル

パワーステアリング

アドバイス

- ハンドルを切ると、パワーステアリングポンプの作動音が変化することがありますが、異常ではありません。また、ハンドルをいっぱいに切った状態ではさらに音が大きくなりますが、異常ではありません。
- 極低温時にオイルが低温で硬くなり、エンジンを始動したとき音がしますが異常ではありません。数分で消えます。

MEMO

IMPRESA GD2-009301~099999, GD3-006701~099999,
GDA-020201~099999, GDB-040301~099999,
GDC-002001~099999, GDD-002001~099999,
GG2-079301~099999, GG3-048601~099999,
GGA-014601~099999, GGC-002001~099999,
GGD-002001~099999